

福岡西方沖地震における
災害対応と玄界島住民の行動に関する調査

平成18年4月

長崎大学工学部社会開発工学科
土木構造学研究室

高橋 和雄

河野 祐次

杉山 豊隆

福岡西方沖地震における
災害対応と玄界島住民の行動に関する調査

平成 18 年 4 月

長崎大学工学部社会開発工学科
土木構造学研究室

高橋 和雄

河野 祐次

杉山 豊隆

目次

第1章	はじめに	1
第2章	福岡県および福岡市の防災システムの現状	1
第3章	地震発生時の情報伝達の問題	1
第4章	通信の状況	2
第5章	都市部の避難の問題	3
第6章	玄界島における避難	3
第7章	避難生活について	4
第8章	被災者への情報提供について	4
第9章	福岡県下市町村の初動体制の調査	4
第10章	福岡市の災害復旧・災害復興推進体制	5
第11章	玄界島住民アンケート調査	5
11.1	アンケートの実施時期について	6
11.2	アンケート調査の概要	6
11.3	地震発生前の災害に関する日ごろの取組み	8
11.4	地震発生時の行動について	8
11.5	地震による被害について	10
11.6	地震直後の行政や防災機関の対応について	11
11.7	応急仮設住宅の現時点での生活の課題	12
11.8	玄界島の復興について	13
第12章	玄界島の復興の課題	14

第13章 まとめ	15
参考文献	16
付録A 福岡県下西方沖地震で被災した玄界島被災者アンケート	17
付録B 福岡県内市町村における地域防災計画「地震対策」に関する調査票	64

福岡県西方沖地震における災害対応と

玄界島住民の行動に関する調査

高橋和雄(長崎大学工学部)

河野祐次(長崎大学大学院)

杉山豊隆(長崎大学工学部)

1. はじめに

1995年1月17日の阪神・淡路大震災を教訓として防災基本計画¹⁾が見直された。次いで1995年から1999年にかけて、すべての都道府県の地域防災計画「地震対策編」が新たに策定されたか、既存の計画が見直された。地域防災計画の実効性を高めるために、想定地震の選定(活断層モデルの作成)、被害想定(地震防災アセスメント)の実施、想定被害に対応しうる災害予防対策・災害応急対策・災害復旧対策を骨子とする地域防災計画の作成と一連の防災対応のシナリオが確立した。

都道府県の地域防災計画「地震対策編」が策定されると、次に市町村が地震対策を策定する順番となるが、九州内の市町村では地震対策の策定は順調には進まなかった。防災マップの作成、自主防災組織の育成などは住民に一番近い市町村の責務であることから、九州では地域レベルの地震対策はあまりなされていない²⁾。このような地震対策の遅れは、九州では風水害による被害が大きいのに対して、地震による被害は小さかったので、地震の心配を行政も市民もしていなかったことを反映している。このような状況の元に福岡県西方沖地震が発生した。今回の地震時の初動期状況を調査してまとめておくことは、今後の地域防災計画の見直しに有効であると判断される。

そこで、本報告は2005年3月20日の福岡県西方沖地震を事例に福岡県および福岡市の防災システムの現状、災害情報の伝達、通信の状況、都市部の避難、住宅の被害が甚大であった玄界島における避難、被災者への情報提供および行政の災害対応を述べる。さらに、福岡県下市町村および玄界島住民に対して実施したアンケート調査結果より、行政および玄界島住民の対応を明らかにする。これらによって地震災害発生時のソフト面の対応の現状と課題を述べる。

2. 福岡県および福岡市の防災システムの現状

自治体の防災活動の評価にはさまざまな手法があると考えられるが、地震、津波、大雨の情報を迅速に地域住民に伝達する防災行政無線(同報系)、自主防災組織の組織率および住民を対象とした防災訓練などのデータによる防災活動の偏差値の総合順位が文献³⁾にまとめられている。これによると福岡県の都道府県別総合順位は41位である。ちなみに宮崎県5位、熊本県20位、鹿児島県23位、長崎県25位、大分県29位、佐賀県46位となっている³⁾。九州北部の順位が低いことがデータの上でも現れている。1999年6月福岡水害や2003年7月九州北部豪雨災害で福岡市博多駅周辺の浸水被害があって防災対策が進められているが、未だ整備段階にあるといえる。データ⁴⁾を調べると福岡県内市町村の防災行政無線(同報系)の整備率は31%(2003年月1日現在、全国平均67%、全国46位)で、福岡市には設置されていない。また、福岡県内市町村の自主防災組織の組織率は38%(2003年4月1日現在、全国平均61%、全国35位)で、福岡市の組織率は45%である。

3. 地震発生時の情報伝達の問題

地震発生直後の各機関の対応を表3.1に示す。10時57分に気象庁から津波注意報が発表されると、NHKのテレビとラジオをはじめメディアは報道を開始したが、福岡市には防災行政無線(同報系)が

連絡先：〒852-8521 長崎市文教町1-14 長崎大学工学部社会開発工学科

(TEL) 095-819-2610 (FAX) 095-819-2627 (E-mail) takahasi@civil.nagasaki-u.ac.jp

表 3.1 3月20日の福岡県西方沖地震における各機関の対応

時間	地震などの状況	福岡市, 福岡市消防局	福岡県	玄界島
10時	53分 地震発生 M7 57分 津波注意報発表	59分 消防ヘリ 情報収集活動開始	53分 災害対策本部設置	
11時		20分 災害対策本部設置		
12時	00分 津波注意報解除		40分 自衛隊派遣要請 海上保安庁に協力 要請 (玄界島)	
13時		05分 消防ヘリ 2機, 指揮隊 6人を玄界島に派遣 15分 災害対策本部会議 (1回目)		
14時			00分 災害対策本部会議	00分 福岡市消防職員 12人と 消防団員 28人で救出活動
15時				05分 陸上自衛隊 140人派遣 20分 福岡市職員 6人, 消防職員 6人追加
16時		00分 災害対策本部会議 (2回目)		40分まで 負傷者 6人を 消防ヘリで救急搬送
17時				00分 全島避難開始 (24時まで) 30分 海上自衛隊艦艇を派遣
18時～ 24時		20時 00分 災害対策本部 会議 (3回目)	19時 06分 災害救助法 の適用	

なかったもので、海岸沿いの地区に注意を呼びかけることはできなかった。地域防災無線が公民館、生活関連機関などに設置されていたのでこれを活用したが、範囲が限定された。

福岡市地域防災計画「地震対策編」⁵⁾によれば、「市域内で震度5弱以上の地震が発生し、福岡管区気象台から発表されたときには各職員は指令を待たず自らの判断で登庁する」となっているが、職員の招集には電話の不通で時間がかかった。一方、福岡県は一斉通信による自動呼出し装置があったので、動員がスムーズにできたようである。福岡市消防局のヘリコプターによる上空偵察は被害の把握に有効であった。このように、地震情報や津波注意報はスムーズに発表されたが、津波注意報の沿岸住民への伝達や職員の動員には課題を残した。

4. 通信の状況

災害発生時には電話の通報がきわめて多くなり、電話がつながりにくくなる状況(輻輳)が発生する。今回も地震発生とともに電話の輻輳が発生したため、NTT西日本福岡支店は福岡県・佐賀県内の266万世帯に対して10時58分に75%の着発信の規制を行った。携帯電話各社にも通話が殺到(NTTドコモ九州の場合、通常の20倍)したので携帯電話の一部の着発信規制が実施された(西日本新聞3月21日、3月25日)。一方、災害時優先機能を有する電話や携帯メールなどは電話の不通を補う情報伝達手段として活用された。最近普及が著しい携帯電話のインターネットとメールはスムーズに使用でき、家族の安否や情報の把握に有効であった。3月に開通した福岡市営地下鉄七隈線がトンネル内に緊急停止したが、GPS機能付の携帯電話で家族による居場所の確認やメールによる安否の確認ができたため、車内の乗客のパニックはなかったと報告されている(西日本新聞3月25日)。災害時優先機能のNTTの公衆電話(緑色)は通話規制の影響を受けない。しかし、携帯電話の普及によって利用者が減少しているため、市街地および郊外とも設置数が大幅に少なくなっている。防災の観点からの設置も関係者で検討する時期に来ている。なお、最近災害時優先携帯電話が使用されているが、NTTドコモ九州の優先回線がつながりにくい状況が地震発生から1時間50分間発生した(2,300回線)。地震によって電話局の通話規制装置と同予備装置が故障したためである(朝日新聞、西日本新聞3月25日)。災害時の安否情報のツールとして災害用伝言ダイヤルが今回かなり活用された。NTT西日本の固定電話では災害用伝言ダイヤル「171」の運用状況(録音・再生件数)は約85,200件、携帯電話ではNTT

ドコモ九州, au およびツーカーグループで約 47,000 件の登録件数と定着しつつある。

1999 年 6 月 29 日の福岡水害を契機として, 福岡市は福岡市防災メール(災害時電子メール)を 2002 年 6 月から運用し, 3,322 件登録されていた。風水害(気象情報, 雨量情報, 河川水位など)を対象にメール配信する条件になっていたことから, 今回の地震や津波注意報は配信されなかった(西日本新聞 4 月 2 日)。

5. 都市部の避難の問題

1978 年宮城県沖地震で都市災害という用語が定着してきた。われわれの生活に使用されている機器やシステムが災害の経験を受けていないため, 便利なものがかえって災害時に危険となることもある。建物のガラスの破損, ブロック塀の倒壊などがニュースとなったが, この他に 2005 年に開通した福岡市営地下鉄七隈線でシステムが作動しない問題が生じた(朝日新聞 3 月 23 日, 西日本新聞 3 月 27 日)。地下鉄では震度 5 弱以上の地震が発生した場合に駅間において自動緊急停止し, その後近くの駅まで運転して, 乗客を降車させるマニュアルであった。しかし, 自動緊急システムの表示板の端末ケーブルがショートしたため, ブレーキの解除が不可能になった。このため, 乗客は 1 時間歩いて避難した。

エレベーターの緊急停止による内部閉じ込めが 16 件発生して, 最大 3 時間閉じ込められたケースもあった。救出が遅れた理由として, 電話の輻輳で通報ができなかったこと, エレベーターの管理スタッフが交通渋滞のため到着が遅れたことが挙げられている。立体駐車場では地震による揺れで車の移動, 転落事故が発生したが, 人的被害はなかった。

6. 玄界島における避難

今回の地震では玄界島の斜面住宅地に建物被害が集中している。4 月 13 日現在の消防庁の被害報告によれば, 玄界島においては負傷者 10 人, 住宅の全壊 127 棟, 半壊 55 棟, 一部破損 43 棟となっており, 住宅の 80%近くが半壊以上の被害を受けた。また, 住宅周辺のブロック塀, 石垣, 擁壁の被害も甚大であった。長崎市内の斜面市街地と比べると, 玄界島には比較的新しい家が多いことと若い世代が多く残っている点が異なる。

玄界島の斜面住宅地には住宅が密集しており, 救急車や消防車が入る道路はない。斜面地には荷物専用の斜行リフトが斜面地の東側と西側の 2 箇所設置されており, 資材の運搬用に利用されていた。火災が発生した場合には初期消火がきわめて重要となる地域である。玄界島には消防署がなく 30 人の水上消防団の玄界島分団とその婦人部が地域を守っていた。玄界島には, 水上分団格納庫が平地部にあり, 島内放送用のサイレンとスピーカーが設置されている。消火用水は海水を用い, 斜面の縦道沿いにホースを伸ばしていたようである。地域では 2 ヶ月に 1 度火災を想定した訓練が行われていた(毎日新聞 3 月 29 日)。地域の固い結束も知られており, 安否の確認に役立った。働き手は沖合で操業中であったが, 地震の揺れの感知や島からの地震発生連絡などからすぐに漁船を港に戻して救助に当たった。

地震発生が 10 時 53 分で, 火を使う時間帯でなかったので火災は発生していない。表 3.1 に示すように 13 時 05 分に福岡市消防局から消防ヘリコプター 2 機と指揮隊 6 人が派遣されてから消防職員, 消防団員, 福岡市職員による救出活動が開始された。負傷者は漁船もしくは消防ヘリコプターで福岡市内の病院に搬送された。住宅や宅地の被害が大きく, 余震の恐れもあることから 3 月 20 日 17 時から住民島外避難が開始され, 24 時に完了した。全島民が避難したが, 災害対策基本法に基づく避難勧告や避難指示は発令されず, 自主避難で対応した。なお, 玄界島内に応急仮設住宅が完成して, 島民の入居に伴って, 玄界島の斜面地に災害対策基本法第 63 条に基づく警戒区域が指定された。

玄界島の島民は福岡市内の避難所にはほぼ全員(193 世帯 428 人)が集団避難した。集団避難生活は 1 ヶ月に及んだが, 避難者数はほぼ一定で途中から別の住宅などに移るケースは少なかった。集団避難中の結束は今後の復興に向けてプラスになると思われる。

表 9.1 災害警戒本部または災害対策本部の設置状況
(N=54)

項目	数	時間	数
災害警戒本部を設置した	23	10:53~11:00	12
		11:00~11:30	8
		11:30~12:00	1
		その他・不明	2
災害対策本部を設置した	19	10:53~11:00	8
		11:00~11:30	9
		11:30~12:00	2
いずれも設置しなかった	12		

表 9.2 職員の招集方法
(N=54, 複数回答)

方法	数	%
自主参集(登庁)	48	88.9
電話連絡	46	85.2
携帯メール	7	13.0
一斉呼び出し装置	6	11.1
その他	3	5.6

7. 避難生活について

福岡市地域防災計画「地震対策編」には避難対策がまとめられているが、避難情報は地域住民に周知されていなかった。つまり、防災マップの配布がここ5年間なされていなかったこと、避難所へ誘導する看板の未設置、NTT電話帳レッドページに未記載、携帯電話で最寄りの避難所を検索するシステムの未設置(毎日新聞3月29日)などの情報の整備が災害対応になっていないことが指摘されている。災害時の避難所として公民館、市民センター、市立体育館、小中学校の体育館、講堂等が指定されているが、これらの施設の老朽化が問題となった。避難生活が長期化する場合には、避難所を生活の場として整備することになっているが、電源コンセントの不足、トイレの水の不足、水、毛布、食糧の備蓄がないことなどが課題となった(西日本新聞3月30日)。

8. 被災者への情報提供について

災害が発生して災害の状況、交通状況、ライフラインの復旧状況、被災者支援策、生活関連などの情報が数多く発表される。これらは被災者、地域住民に行政からの連絡、メディアによる報道および自治会・町内会による連絡などを通じて周知される。1991年雲仙普賢岳の噴火災害ではチラシの配布、1995年阪神・淡路大震災ではFAXの利用、2005年福岡県西方沖地震ではホームページの活用とそれぞれ特徴的な情報提供の方法が中心となった。ホームページやメールの活用が災害情報の主流となっている。

9. 福岡県下市町村の初動体制の調査

今回の地震時の市町村の災害対応を調査するために、2005年6月に福岡県下85市町村にアンケート調査を実施した。本報告では7月19日時点の54回収(回収率64%)のアンケート調査の一部を報告する。災害警戒本部または災害対策本部の設置状況を表9.1に示す。職員の招集方法は表9.2のように電話(固定もしくは携帯)、自主参集(登庁)が多い。携帯メールは少ない。地震発生直後には固定電話や携帯電話が通話規制のため使用できずに、当日の職員の招集には時間を要した。しかし、最終的にはほとんどの市町村(2市町村を除く)で必要な人数は確保された。福岡県下の市町村の約半数が、住民への広報活動を防災行政無線、広報車、消防団、有線放送、オフトーク通信を通じて行った。内容は地震、津波注意報、余震への注意、自主避難の呼びかけ、被害報告の呼びかけ、地震に便乗した業者への注意などである。またほとんどの市町村で被害情報の収集を行った。その方法は、地区を区割りした上で職員による被害調査、町内会・区長への被害調査連絡、公共施設の巡視点検、消防団による

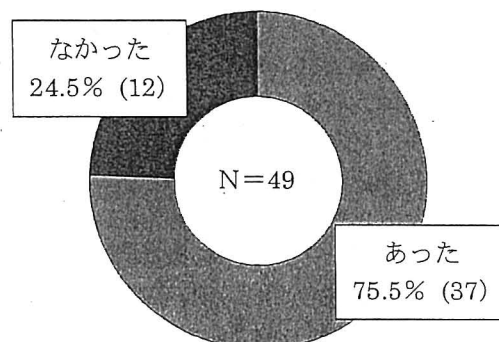


図 9.1 初動体制の課題の有無

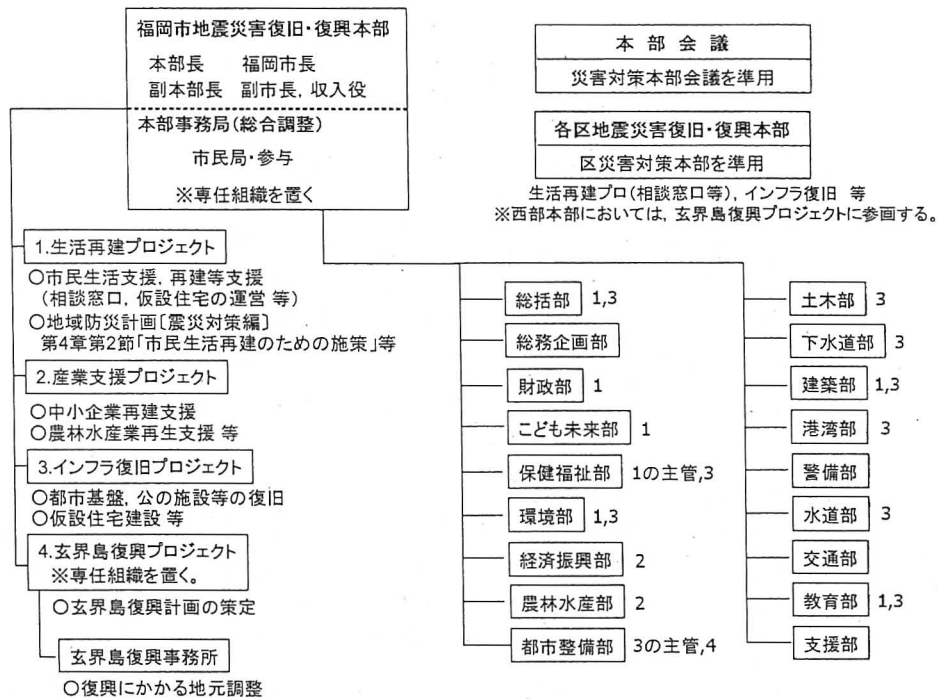


図 10.1 福岡市の災害復旧・災害復興体制

巡視調査依頼, 消防署・警察署との情報交換などであった。また動員された職員は防災責任者(市町村長等)へ連絡を行っていた。今回の地震について課題があったかどうかについては「課題があった」とする回答が多い(図 9. 1)。特に固定電話や携帯電話が使えなかったことによる職員の招集の遅れ(休日・夜間の連絡体制), 情報収集など連絡手段が確保されていないこと, 動員職員の役割分担がないこと(マニュアルの必要性), 地域防災計画に地震対策がなく被害調査など対応できなかったこと, 食料・生活物資の確保および市町村合併に伴う防災計画の未整備などが挙げられている。

10. 福岡市の災害復旧・災害復興推進体制

集団避難対策などの災害応急対策が終ると, 復旧・復興に向けて住宅・生活再建, インフラ復旧などの災害復旧・復興対策の動きが始まる。住宅の被害が大きかった玄界島に対しては3月24日に応急仮設住宅建設の計画が発表された。当初の案では, 玄界島70戸程度, 福岡市西区博多漁港かもめ広場130戸程度であったが, 漁業関係者が多いことから, 4月1日に計画の変更が発表され, 玄界島100戸, かもめ広場100戸に修正された。福岡市は, 3月27日には復旧対応に迅速・的確・重点的に取り組むために福岡市地震災害復旧会議を設置した。この会議は福岡市災害対策本部内に時限的に設置されたもので, 災害復旧のため, 全体の復旧計画・方針を検討し, 各復旧施策の総合調整を行う役目を持つ。復興体制を整えるまでの時限的な組織で, ここで災害対策本部の業務のうち, 全体調整, 被災者の生活支援, 被災地のインフラ復旧, 各局・区支援, 国・県に対する要望等復旧対応を受け持った。

応急対策がほぼ終了した4月12日に, 福岡市は災害復旧計画に本格的に取り組むために, 福岡市地域防災計画「地震対策編」に基づいて「福岡市災害復旧・復興本部」(本部長市長)を設置した(図 10. 1)。ここで, 災害復旧・復興のため, 全体の復興計画・方針を策定し, これに基づき各施策, 施設ごとの復旧計画を作成することになっている。被害が大きかった玄界島は別個の玄界島復興プロジェクトという専任組織が置かれ, ここでは玄界島復興計画が策定される予定である。また, 地元調整のため, 玄界島復興事務所が設置された。

11. 玄界島住民アンケート調査



写真 11.1 斜面地の住宅と宅地の被害

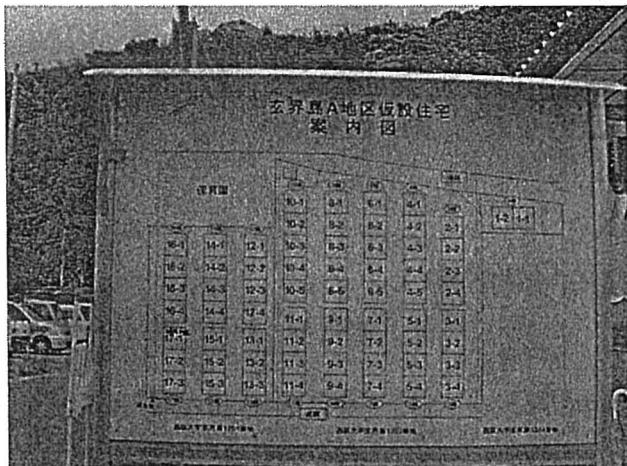


写真 11.2 玄界島の応急仮設住宅の配置図



写真 11.3 玄界島の応急仮設住宅

(1) アンケートの実施時期について

玄界島では応急仮設住宅入居直後から斜面住宅地の復興に向けて、住民主体の復興対策が検討され始めた。斜面地では住宅の他に宅地・道路が大きな被害を受けているため、個々の住宅を自力で再建することは不可能である(写真 11.1)。したがって、自主再建を断念して斜面地の住宅を解体して、斜面の安全対策および道路などの基盤整備後に住宅や公営住宅を再建する方向で復興対策が6月から7月にかけて検討された。

斜面地のボーリング調査で地震による地盤の被害は大規模ではなく、対策を行えば住宅地として再生できることが判明すると、住民主体の玄界島復興対策検討委員会によって、住宅などの復興の意向調査および残存家屋の解体に対する同意書の取付け、道路および斜面の移動システム(斜行エレベータなど)の整備の検討が精力的に行われた。玄界島復興対策検討委員会の会合には福岡市の担当者も同席した。6月末に1回目の意向調査が行われ、その結果を基に具体的な検討がなされた後、7月下旬に再度アンケート調査がなされる予定になっている。災害対応の担当では、応急仮設住宅入居後の時期を捉えて住民アンケート調査を計画したが、住民の復興への動きは早く、実施されていた住民の意向調査との混乱を避けるために、今回のアンケート調査は1回目と2回目の住民の意向調査の中間にあたる7月上旬に実施した。さらに、今回のアンケート調査では、住民の現在の状況と復興への動きを十分配慮した設問とし、アンケート調査は行政、住民の立場に無関係な大学の研究の立場から実施した。この時期のアンケート調査の位置付けとしては適切であったと理解している。したがって、今回は具体的な住宅再建資金、事業主体、制度、合意形成の方法、情報の共有などの踏み込んだ内容は聞いていない。

(2) アンケート調査の概要

表 11.1 アンケート調査票の配布数・回収数

地 域	配布数	回収数	回収率(%)
玄界島仮設住宅	94	78	83.0
かもめ広場仮設住宅	90	64	71.1
自宅・教員アパート・市営住宅	31	25	80.6
計	215	167	77.7

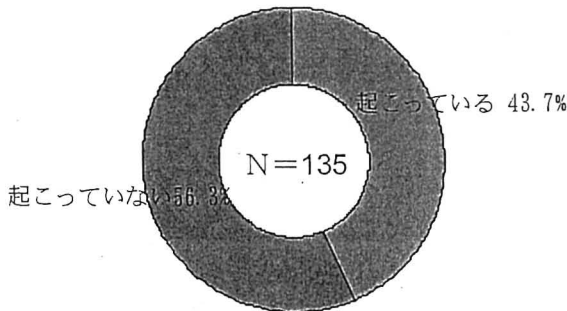


図 11.1 現在の住居では世帯分離が起きているか

「福岡県西方沖地震における玄界島地震アンケート調査」票は(1)回答者の属性、居住歴、住宅など(10問)、(2)地震発生前の災害に対する日頃の取組み(3問)、(3)地震発生時の行動と判断(8問)、(4)地震による被害(6問)、(5)行政や防災機関の対応(4問)、(6)集団避難生活の状況(2問)、(7)応急仮設住宅の居住性・周辺環境(3問)、(8)玄界島の復興について(5問)より構成される。なお、地震発生時の行動と判断および地震による被害については、文献 6)を参照して作成した。

アンケートの回答者は世帯主か世帯主に代わる家族とした。アンケートの対象は玄界島の応急仮設住宅 100 戸(写真 11.2, 11.3)、西区博多漁港かもめ広場の応急仮設住宅 100 戸、玄界島の平地の被害が少なく居住可能な一戸建ての個人住宅、市営住宅およびその他住宅 35 戸とした。なお、玄界島では現在保育園、小学校および中学校が閉鎖中なので、園児、小・中学生はかもめ広場の仮設の保育園および福岡市内の小・中学校に通っている。一方、働き手は漁業や仕事の関係から病院などの公共施設や店舗が全部復旧していない島内の応急仮設住宅や自宅などに住むことが必要になっている。このことから、38 世帯に世帯分離が起っており、玄界島に働き手が住み、かもめ広場に家族が住んでいる。また、応急仮設住宅の仕様は 4 人家族用なので、5 人以上の家族ではかもめ広場の応急仮設住宅を 2 戸利用するケースも含まれている。また、年配者の中には被災した家屋を見たくないために玄界島に帰りたくないという理由で、世帯分離が発生している世帯もある。このような事情を把握しながら、アンケート調査票を配布した。なお、アンケート調査票の配布・回収は戸別訪問し、原則として手渡しで配布・回収を行った。7月2,3日(配布・回収)と7月9,10日(回収)に実施した。9,10日両日不在の世帯については一部郵送を依頼した。2005年7月13日の回収状況は表 11.1 のとおりである。

アンケートの回答は世帯主もしくは世帯主に代わる家族としたが、男性 53%、女性 47%となっている。年齢は 50 歳代が 53%、次いで 40 歳代が 22%と多い。職業は漁業 36%、専業主婦 21%、無職 20%が目立つ(表 11.2)。居住歴は 40 年以上が 73%を占め、ここ 10 年以内は%、10 年以上 20 年以内は 4%ときわめて少ない。地震前の住宅は表 11.3 のように一戸建て木造が多い。家を建築してからの年数をみると 10 年未満 16%、10 年以上 20 年未満 16%、20 年以上 30 年未満 36%、30 年以上 32%となっているが、ヒアリングによればリフォームは近隣が家を新築したときなどに割と頻繁に行われていたようである。現在の住宅を聞いたところ、災害前の住宅に戻っている世帯は全体の 9%で、その内訳は鉄筋コンクリート造りの市営アパートと平地の被害が小さかった一戸建ての住宅である。鉄筋コンクリートの市営アパートは建物の損傷は軽微であったが、家財道具の被害はひどかったという。一戸建ての住宅で損傷が少なかった家はリフォーム時に免震パッキンを入れるか、阪神・淡路大震災後の新築時に大工さんからのアドバイスで基礎に地震対策を行った家などであった。前述のように、38 世帯が玄界島とかもめ広場の応急仮設住宅に別れて住んでいること、応急仮設住宅は 4 人仕様なので 5 人

表 11.2 あなたの職業を教えてください

N=162		
項 目	人	%
漁業	58	35.8
専業主婦	34	21.0
会社員	11	6.8
公務員・団体職員	10	6.2
専門職・自由業	6	3.7
自営商業	2	1.2
自営工業	1	0.6
その他	9	5.6
無職	32	19.8

表 11.3 地震前の住宅についてお教え下さい

N=167		
項 目	人	%
一戸建て(木造)	151	90.4
一戸建て(鉄筋コンクリート造)	2	1.2
集合住宅(木造)	3	1.8
集合住宅(鉄筋コンクリート造)	10	6.0
その他	1	0.6

表 11.4 地震前に地域で日頃どのような災害に対する取組みをしていましたか

項 目	N=162 (複数回答)	
	人	%
防火クラブ(婦人防火クラブなど)の結成	109	67.3
消火訓練	97	59.9
お年寄り, 病人等の把握	33	20.4
地区内の避難場所の確認	33	20.4
災害時などの連絡方法の決定	31	19.1
避難訓練	31	19.1
災害・火災などの講演会・映画会の開催	23	14.2
地区内の危険箇所の見回り	21	13.0
何もしていない	21	13.0
その他	8	4.9

表 11.5 地震前に家庭内で災害に備えてどのような取組みをしていましたか

項 目	N=162 (複数回答)	
	人	%
消火器を用意していた	119	73.5
懐中電灯や携帯ラジオを用意していた	77	47.5
消火用水の用意(風呂に水をばる, バケツに水を汲んでおくなど)	50	30.9
家族との連絡方法を決めていた	20	12.3
非常持ち出しを用意していた	16	9.9
地震保険に加入していた	13	8.0
非常食を用意していた	12	7.4
ブロック塀の点検や転倒防止をしていた	7	4.3
家具が倒れないようにしていた	6	3.7
その他	5	3.1
何もしていない	21	13.0

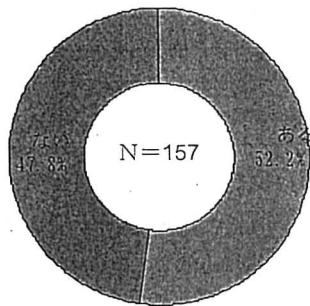


図 11.2 避難訓練に参加したことがあるか
表 11.6 地震発生時にどこにいましたか

項 目	N=166	
	人	%
自宅にいた	76	45.8
漁船・連絡船に乗っていた	49	29.5
自宅・会社・学校以外の建物の中にいた	7	4.2
建物や車などの外にいた	7	4.2
会社・学校にいた	6	3.6
その他	21	12.7

表 11.7 地震が起こってから揺れが収まるまでの間, とっさにどんなことをしましたか

項 目	N=153 (複数回答)	
	人	%
じっと様子を見ていた	60	39.2
火の始末をしたり, ガスの元栓を締めたりした	58	37.9
歩けなかった(動けなかった)	41	26.8
子供や老人, 病人などを保護した	37	24.2
安全な場所に避難した	36	23.5
家や建物の外に飛び出した	35	22.9
安全な場所にかくれたり, 身を守ったりした	29	19.0
周りの人の安全を確かめようとした	24	15.7
頑丈なものにつかまって身体を支えた	19	12.4
無我夢中で覚えていない	7	4.6
戸, 窓などを開けた	6	3.9
家具や壊れ物を押さえた	5	3.3
その他	31	20.3

以上の大家族構成の世帯は入居できないこと, 玄界島に働き手が残って家族は福岡市内に住むなどの理由から, 図 11.1 に示すような世帯分離が 44%の世帯で発生している. このため, 玄界島の応急仮設住宅では子供の声がかたかく聞かれず, 逆にかもめ広場では子供の遊ぶところがない状況になっている. 土, 日には玄界島とかもめ広場の応急仮設住宅の間を往復する島民の姿が目立つ.

(3) 地震発生前の災害に関する日ごろの取組み

玄界島には水上消防団の組織はあるが, 斜面住宅地には消防車やポンプ車が入る道路はない. 火災に対しては初期消火がきわめて重要な地域である. 「この地域で災害前に日ごろどのような災害に対する取組みをしていたか」を聞いた結果を表 11.4 に示す. 「防火クラブ(婦人防火クラブ)の結成」および「消火訓練」がなされている. 働き手は漁業のために島を離れることがあるので, 婦人や小中学生が主体となった防火クラブを結成して活動している. 「消火訓練や避難訓練に参加したことがあるか」どうかを聞いたところ半数以上が参加したことが「ある」と回答している(図 11.2). 地震前に家庭内で災害に備えてどのような取組みをしていたかについては, 「消火器を用意していた」74%, や「消火用水の用意」31%などのように火災に対する備えはしっかりしていたが, 家具の転倒防止やブロック塀の点検等のように地震に対する備えはほとんど行っていなかった(表 11.5).

(4) 地震発生時の行動について

表 11.8 地震当日困ったことは何ですか

N=160 (複数回答)			
項目	人	%	
携帯電話・PHSが使えなかった	99	61.9	
家族との連絡が取れなかった	76	47.5	
荷物が持ち出せなかった	66	41.3	
固定電話が使えなかった	57	35.6	
親戚や知人の安否がわからなかった	50	31.3	
水道が使えなかった	42	26.3	
どこに逃げてよいかわからなかった	32	20.0	
何をしてよいかわからなかった	30	18.8	
行政からの情報が少なかった	28	17.5	
停電になった	21	13.1	
ペットを連れて行けなかった	11	6.9	
その他	19	11.9	

表 11.9 地震後の災害の情報をどこから入手しましたか

N=158 (複数回答)			
項目	人	%	
テレビ・ラジオ	86	54.4	
家族や近所の人たちとの会話	64	40.5	
屋外からの人の声	52	32.9	
福岡市の防災ヘリコプター	22	13.9	
警察、消防からの情報	21	13.3	
島内の有線放送	12	7.6	
携帯電話の情報サービス	4	2.5	
その他	21	13.3	

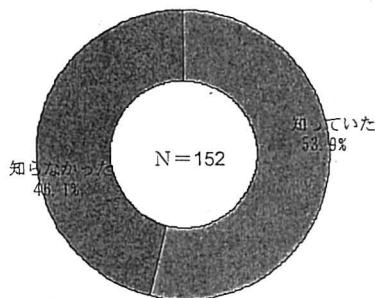


図 11.3 津波注意報を知っていましたか

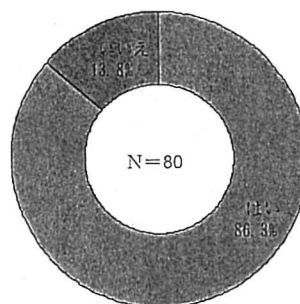


図 11.4 スマトラ地震の津波が頭に浮かびましたか

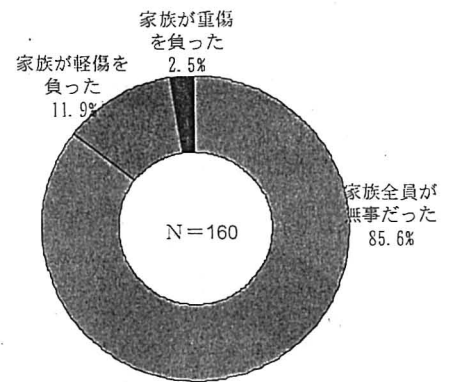


図 11.5 ご家族の被災について

表 11.10 知ってどうしましたか

N=73 (複数回答)			
項目	人	%	
住宅が海岸部にあるので、高台に避難した	27	37.0	
テレビ、ラジオの放送に気がつけた	24	32.9	
海岸近くにいたので、高台に避難した	14	19.2	
家族や近所の人たちと相談した	11	15.1	
携帯電話の情報サービスにアクセスした	3	4.1	
何もしなかった	3	4.1	
その他	19	26.0	

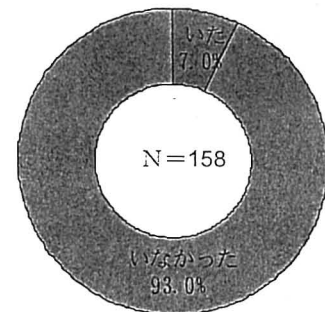


図 11.6 家の中に閉じ込められた家族がいましたか

地震発生日は3連休の中日でお彼岸にあたっていた。地震発生時の10時53分には漁船はまだ沖合で操業をしており、浜では漁網などの手入れがなされていた。家庭内ではお彼岸のお参りや法要で島外から親戚や子供たちが集合するのを待つ時間帯であった。次の連絡船の到着が11時45分頃であることから、仏壇にろうそくや線香をあげる時間にはまだなっていなかった。

地震発生時に島内に「いた」は65%である。「沖合で漁船に乗っていた」30%を加えるとほとんど自宅か島の沖合に居たことになる。また、居場所を聞いたところ表11.6のように「自宅」と「漁船」が76%を占める。「自宅・会社・学校以外の建物」、「車・バイクに乗っていた」および「電車・バスに乗っていた」は皆無であった。地震が起こってから揺れが収まるまでの間の行動は表11.7のとおりである。自宅に居た人は、「火の始末やガスの元栓締め」を行うとともに「子供や老人・病人の保護」、「家や建物の外に飛び出す」などの一連の行動をしている。船に乗っていた人たちも船を突き上げるようなショックを受けて異常に気がついた。また、船から近くの島を見ると島に土ぼこりが舞い上がっていたという。漁船にはテレビ、ラジオ、無線および電話が装備されているので、地震発生がわかるとともに、さらに家族からのメールによる連絡で玄界島の被害の様子もわかり一斉に操業を中止して帰島した。

表 11.11 家屋の被害についてお教え下さい

項 目	N=158	
	人	%
半壊した	59	37.3
一部が損壊した	50	31.6
全壊した	36	22.8
ほとんど被害がなかった	13	8.2

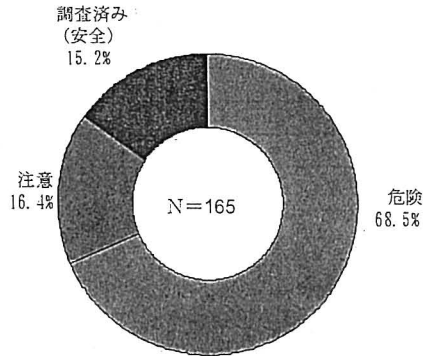


図 11.7 住宅の被害調査結果について

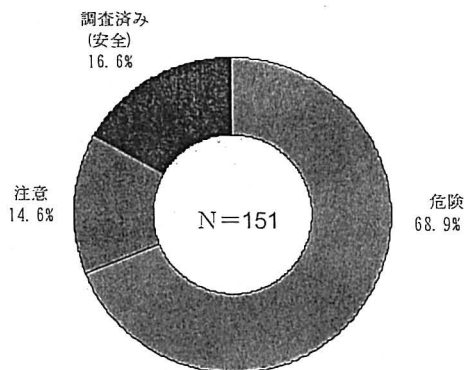


図 11.8 宅地の被害調査結果について

地震当日困ったことを聞いたところ、「携帯電話・PHS が使えなかった」や「家族との連絡が取れなかった」のように情報収集に困難を感じた(表 11.8)。なお、地震直後の情報源は表 11.9 のように「テレビ・ラジオ」、「家族や近所の人たちとの会話」および「屋外からの人の声」が大部分である。行政・消防・警察からの情報やインターネットなどからの情報はきわめて少ない。当日、水上消防用のサイレンやスピーカーは停電のため使用できなかった。気象庁が 10 時 57 分に津波注意報を発表したことを半数強が知っていた(図 11.3)。情報源は「テレビ・ラジオ」、「屋外からの人の声」および「家族や近所の人たちとの会話」で、地震発生を知った情報源と同じである。このとき「昨年 12 月 26 日に発生したスマトラ地震の津波が頭に浮かんだ」と 86% が回答している(図 11.4)。この情報を知って地震直後に平地の広場、公民館、漁業用資源保管施設などに避難していた住民は、斜面の高台にある小学校・中学校のグラウンド、神社の境内もしくは畑などの空き地に避難した(表 11.10)。避難した小学校や中学校のグラウンドにも亀裂が入り、余震が続く中亀裂が拡大するので不安だったという証言も残っている。その後、12 時に津波注意報が解除されると避難者は平地の公民館や網修理場所などに集合した。この間、自宅に戻って電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を締め、貴重品を持ち出し、戸締りなどをしたが、家屋内に立ち入れない家もあったという。島外避難が 16 時頃から始まり、女性・子供・高齢者が先に連絡船や消防の船で出発し、避難所の福岡市中央区の九電記念体育館に向かった。最後に、水上消防団員などの働き手の男性が避難し、20 日 24 時頃に避難所に集合した。

(5) 地震による被害について

今回の地震による人的被害について聞いたところ、図 11.5 の結果を得た。「家族全員が無事であった」が 86%、「家族が軽傷を負った」12%、「家族が重傷を負った」3%となっている。家屋の被害、家

表 11.12 家具などの家財道具の被害はどうでしたか

項 目	N=163	
	人	%
たんすなど安定した大きなものが倒れた	112	68.7
倒れはしなかったが、扉が開いて、家の中の食器などが壊れた	44	27.0
花瓶や額縁などの比較的小さいものが壊れたり、落下したりした	6	3.7
被害はなかった	1	0.6



写真 11.4 住宅と宅地の判定結果

表 11.13 お宅では住宅の周辺で被害がありましたか

項 目	N=148 (複数回答)	
	人	%
建物の基礎の地盤に陥没、隆起、亀裂が入った	105	70.9
石垣や擁壁が壊れた	85	57.4
ブロック塀が壊れた	68	45.9
崖が壊れた	48	32.4
納屋や蔵などの非住家が被害を受けた	26	17.6
その他	17	11.5

表 11.14 今回の地震において、地震直後の安否確認、島外避難、避難所の運営、救援物資などの配布のスピードはどうでしたか

N=165		
項目	人	%
早かった	107	64.8
まあ早かった	33	20.0
普通だった	11	6.7
やや遅かった	7	4.2
遅かった	7	4.2

表 11.15 今回の地震において、地震直後の安否確認、島外避難、避難所の運営、救援物資などの配布の対応はどうでしたか

N=164		
項目	人	%
十分だった	106	64.6
まあ十分だった	40	24.4
普通だった	7	4.3
やや不十分だった	6	3.7
不十分だった	5	3.0

表 11.16 地震後の生活支援メニューなどの情報の入手は次のどれでしたか

N=154 (複数回答)		
項目	人	%
自治会長からの連絡	90	58.4
説明会・集会	87	56.5
新聞	59	38.3
テレビ・ラジオ	59	38.3
知人による口コミ	35	22.7
電話	10	6.5
携帯電話の情報サービス	4	2.6
インターネット	2	1.3
その他	6	3.9

表 11.17 生活支援メニューの内容をどの程度知っていますか

N=141		
項目	人	%
良く知っている	8	5.7
大体知っている	41	29.1
少し知っている	46	32.6
ほとんど知らない	46	32.6

表 11.18 あなたのご家族はどんな避難生活を送りましたか

N=151		
項目	人	%
家族全員が集団避難した	101	66.9
家族の一部が集団避難した	43	28.5
家族全員が集団避難しなかった	7	4.6

財道具の倒壊、家屋周辺のブロック塀の被害にもかかわらず、負傷者は少なかった。今回の地震で家の中に家族が閉じ込められたケースは 11 件(7%)であった(図 11.6)。「家族によって救出された」7 件および「自力で避難した」3 件で、「消防・警察等によって救出された」は 1 件であった。このように家に閉じ込められた人の多くは家族によって救出されている。地震発生時に多くの家で人が残っており、お年寄りや子供を保護できたことが被害を小さくした理由であろう。家具の倒壊などで家の中では非常に危険な状態であったが、直撃を免れたケースもあった。地元の人へのヒアリングによれば、神様の助けがあったからとか、日ごろの信心のおかげと受け取っている。島内には神社 2 箇所があり、稲荷も多いのも事実である。地震後の火災がなかったことについては各家庭においてブレーカー落とし、ガスの元栓締めなどの日頃の火災に対する備えの効果があったと考えられる。

住宅の被害について聞いたところ、表 11.11 の結果を得た。全・半壊が 59%を占め、「ほとんど被害がなかった」は 8%程度しかない。この地震によって家具などの家財道具の被害を聞いたところ、「たんすなどの安定した大型家具が倒れた」69%のように家財道具の転倒が発生した(表 11.12)。住宅の被害調査結果は図 11.7 に示すように「危険」が 68%を占めた(写真 11.4)。今回の地震では家屋のほかに家屋の基礎、庭、石垣、ブロック塀などが被害を受けた。被害の内訳は表 11.13 に示すとおりで宅地の被害が大きい。斜面住宅地ではある住宅の石垣、擁壁の崩壊が下側の家屋を押しつけて被害をもたらすとともに逆に上側の住宅の石垣、擁壁から被害を受ける形となっていた。地震発生直後には壊れていない家屋が、余震や隣家の石垣、擁壁の新たな崩壊で被害を受けて倒壊や損壊したケースも見受けられた。図 11.8 に示すように宅地についても被害調査が行われており、これを見ると住宅と同程度の被害となっている。復興にあたって個々での家屋の建替えは不可能であり斜面地全域の対策の後、住宅を建設することが必要なことを示している。

(6) 地震直後の行政や防災機関の対応について

今回の地震において、地震直後の行政や防災機関による安否確認、島外避難、避難所の運営および救援物資の配布のスピードについては表 11.14 のように「早かった」とする回答が多い。また、上記安否確認などの対応も「十分だった」とする回答が多い(表 11.15)。また、地震後の被災者への生活支援メニューなどの情報源を見ると、表 11.16 に示すように「自治会長からの連絡」や「説明会・集会」が目立つ。今回の地震で福岡市が整備を行い、情報を提供した「インターネット」などの情報の利用者はきわめて少ない。間接的な「テレビ・ラジオ」や「新聞」もそれぞれ 38%を占めている。マスク

表 11.19 現時点で応急仮設住宅の構造上の問題点はありますか

項目	N=137 (複数回答)	
	人	%
隣の物音が聞こえる	116	84.7
暑いまたは寒い	112	81.8
収納スペースが少ない	95	69.3
玄関がない	54	39.4
湿気が多い	53	38.7
洗濯物の干し場がない	50	36.5
プライバシーが保てない	47	34.3
すきま風が入る	40	29.2
風呂・トイレが使いにくい	21	15.3
気になる段差がある	20	14.6
仏壇が置けない	17	12.4
その他	30	21.9

表 11.20 現時点で応急仮設住宅の周辺の環境で問題点はありますか

項目	(複数回答)					
	全体 N=142		玄界島 N=79		かもめ広場 N=63	
	人	%	人	%	人	%
敷地内の水はけが悪い	69	48.6	41	51.9	28	44.4
車の走行などの騒音が気になる	61	43.0	15	19.0	46	73.0
ベンチや花壇などの緑地がない	23	16.2	19	24.1	4	6.3
風除けのフェンスがない	17	12.0	10	12.7	7	11.1
バス停や駅まで遠い	7	4.9	3	3.8	4	6.3
駐車場がない	7	4.9	3	3.8	4	6.3
近くに店舗がない	7	4.9	5	6.3	2	3.2
公民館(集会場)がない	3	2.1	2	2.5	1	1.6
その他	24	16.9	10	12.7	14	22.2

表 11.21 応急仮設住宅で生活していて問題点はありますか

項目	(複数回答)					
	全体 N=142		玄界島 N=79		かもめ広場 N=63	
	人	%	人	%	人	%
盗難などの防犯面の対応	43	30.3	11	13.9	32	50.8
環境、衛生などの健康面	36	25.4	21	26.6	15	23.8
買い物に不便	33	23.2	29	36.7	4	6.3
行政からの情報が入りにくいこと	29	20.4	12	15.2	17	27.0
病院通いに不便	26	18.3	13	16.5	13	20.6
火災、急病などの緊急面の対応	21	14.8	8	10.1	13	20.6
火災の心配	19	13.4	9	11.4	10	15.9
通勤や通学に不便	10	7.0	7	8.9	3	4.8
友人や話し相手がいないこと	10	7.0	5	6.3	5	7.9
その他	12	8.5	3	3.8	9	14.3

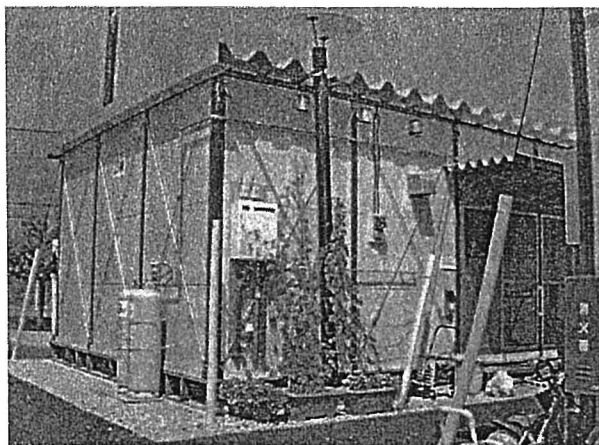


写真 11.5 応急仮設住宅のみどり，花

ミの情報が早く、マスコミ関係者が避難所に詰めていたために情報源としては貴重だったと判断される。ただし、集団避難所に居ないと被災者には情報が入りにくい状況にあったことが確認できる。このことが、集団避難者の人数が減らなかった一因とする報道も見受けられた。都市部ではインターネットなどによる情報収集が確実な手段として定着している反面、特定の地域ではまったく機能していないことがわかる。被災者への情報伝達については地域性を把握した対応が必要なことを示唆している。災害救助法による支援内容や福岡県や福岡市の災害支援についての情報は「良く知っている」および「大体知っている」が半数以下となっている(表 11.17)。

避難生活の状況を見ると、家族全員が「集団避難した」67%、「家族の一部が集団避難した」28%とほとんどが集団避難をしている(表 11.18)。集団避難所の九電記念体育館について避難所としての機能(生活する場として)、運営方法、情報伝達およびボランティアの活動について聞いたところ、避難所の運営は避難前の町内会の組か班で行ったために、運営はスムーズに行ったようである。ただ慣れない避難生活で生活の場所としては窮屈さ、洗濯、情報伝達、プライバシーの保護、換気等について課題があったようである。避難所内に簡易的な仕切りの設置や町内会の班ごとの使用を提案する意見があった。ボランティアの活動については感謝の記入が大部分であった。次に災害があったら、恩返しにボランティア活動をしたいとする書き込みが数件あった。

(7) 応急仮設住宅の現時点での生活の課題



写真 11.6 かもめ広場の集会所

表.11.22 現在の生活の中で困っていることや不安に思っていることは何ですか

N=157 (複数回答)	
項目	人 %
梅雨時の大雨による宅地の崩壊	117 74.5
余震による被害の拡大	108 68.8
住宅再建の目途が立たないこと	90 57.3
災害による精神的ストレス	74 47.1
復興計画が見えないこと	73 46.5
避難生活の長期化	67 42.7
当面の仕事, 収入	49 31.2
家族がばらばらになったこと	42 26.8
応急仮設住宅の居心地が良くないこと	35 22.3
近所がばらばらになったこと	29 18.5
プライバシーが確保できないこと	27 17.2
その他	14 8.9

応急仮設住宅の構造上の問題を聞いたところ、表 11.19 の結果を得た。応急仮設住宅の構造上の問題として、雲仙普賢岳の火山災害における島原市、阪神・淡路大震災における神戸市の応急仮設住宅の構造上の問題が玄界島・かもめ広場の応急仮設住宅でも見受けられる。また、現時点での応急仮設住宅の周辺環境の問題を見ると、表 11.20 のように「敷地内の水はけが悪い」と「車の走行などの騒音が気にかかる」が半数近くを占める。玄界島では敷地内をアスファルト舗装中なので、水はけは良くなるものと考えられる。玄界島では「ベンチや花壇などの緑地がない」が多く、かもめ広場では「車の走行などの騒音が気になる」が多い。かもめ広場では応急仮設住宅の周りに花を植えたプランターを置いたり、ボランティアが各戸にプランター2箱寄贈したゴーヤ(にがうり)や朝顔の垣根を作ったりして生活の場とする工夫が見られるが(写真 11.5)、玄界島では生産の場として利用しているため、応急仮設住宅の周りには未だ何もない状況である。また、玄界島では海岸に近いので、船虫(地元の呼び名:あまめ、またはあまみ)が応急仮設住宅に入ってくるのが「その他」で挙げられている。応急仮設住宅で生活する上での問題点は表 11.21 のように防犯面、健康面、買い物、情報、病院通いなどにあることがわかる。玄界島では「買い物が不便」、かもめ広場では「盗難などの防犯面の対応」が挙げられている。これらは応急仮設住宅の立地にかかわる事柄である。生活の場となっているかもめ広場の応急仮設住宅については、人の往来や車の多い地点なので周辺の垣根の設置および夜間の岸壁への立入り自粛を求めるような工夫が望まれる。なお、かもめ広場には集会所が設置されており、各種の集いや健康相談などに活用されている(写真 11.6)。

応急仮設住宅の構造や周辺環境についてはこれから夏の暑さ、冬の季節風の時期における居住性などから、今後課題が明らかになり住むための環境整備がなされることが想定される。

(8) 玄界島の復興について

現在(7月23日時点)の生活の中で困っていることや不安に思っていることは、表 11.22 のとおりである。「梅雨時の大雨による宅地の崩壊」および「余震による被害の拡大」のように、被害の拡大が心配されている。「住宅再建の目途が立たないこと」が3番目に挙げられている。これは5番目の「復興計画が見えないこと」と密接に関係している。現在、玄界島復興計画検討委員会で斜面地に住宅を建設するための検討がなされつつある。斜面地や平地に住宅を再建することを個人レベルでは検討しているが、資金計画を立てて具体的な試算ができる状況にはない。「自分の宅地がどうなるのか」、「平地の家屋も一旦解体して基盤整備を行うのか」、「行政からの支援の内容は」など個人の意向を決定する判断材料が必要な時期を迎えつつある。インターネット、メールなどの情報手段が使われていない玄界島では、応急仮設住宅の団地ごとの町内会、棟レベルの班、自宅、公営住宅などの単位で連絡組織を構築し、復興・再建ニュース(仮称)などを玄界島復興対策委員会もしくは福岡市の現地対策本部で発行し、全戸に配布するなどの情報伝達を行う意見集約システム、情報伝達システムの強化が必要である。集団避難中も現在も地域住民が新聞を見て重要な情報を知る状況は好ましくない。新聞はポイントについては正しく伝えるが、住民に必要な情報をすべて伝えることは広範な読者を対象としてい

表 11.23 今後の復興で重要なことはなんですか

N=148 (複数回答)		
項 目	人	%
住宅の再建	111	75.0
斜面地の住宅地の再整備	92	62.2
斜面や崖の防災工事	79	53.4
公営住宅の建設	78	52.7
斜面地の道路、水道、下水道の整備	72	48.6
避難路の整備	61	41.2
漁業の振興	53	35.8
サイレンなどの情報伝達システムの整備	48	32.4
津波対策	45	30.4
地震による災害遺構(石碑、石垣等)の一部保存	31	20.9
自主防災組織の結成	25	16.9
消防団の結成	10	6.8
その他	6	4.1

表 11.26 これからの復興に向けて、大事だと思うことは何ですか

N=151 (複数回答)		
項 目	人	%
地域住民のまとまり	124	82.1
地域住民の復興にかける意欲	112	74.2
復興アドバイザーなどの専門家の支援	98	64.9
行政の情報提供	84	55.6
制度の弾力的運用などの規制緩和	51	33.8
その他	17	11.3

るため無理がある。

「災害による精神的ストレス」も47%とかなり高い。集団避難中はボランティアや行政担当者が個人のメンタルケアを行ったが、応急仮設住宅や自宅などに戻った後には「応急仮設住宅への訪問メンタルケア」などの対応はとられていない。また、応急仮設住宅周辺にはボランティアの姿も見受けられない。将来のことに加えて「家族や隣近所がばらばらになった」こともあるので、訪問によるメンタルケアは必要と思われる。「災害でみなが困っているのに自分だけが病院に行けない」という考えは雲仙普賢岳や阪神・淡路大震災の被災地でも見られた事柄である。

今後の復興で重要なことを聞いたところ、表 11.23 の結果を得た。住宅、宅地、道路、斜面の防災工事などの斜面地の住環境確保が上位を占めている。これらは現在の地域住民の最大の関心事といえよう。次に漁業の振興、サイレンなどの情報伝達システム、津波対策が続く。津波対策を考えた場合、海岸沿いの平地の住宅計画をどうするのかも検討の対象になる。

今後、住宅を再建・確保する場所を聞いたところ、表 11.24 のように島内がほとんどであるが、中にはまだ決めかねている人もある。希望する住宅の種類についても一戸建て住宅(個人)を希望するものの資金との関係、後継者の有無などで決めかねている状況にある(表 11.25)。これから復興に向けて個人別の課題を解決しながら地域でまとまり、行政の協力を得ていくことが望ましい。最後に、これからの復興に向けて大事だと思うことを選んでもらった結果は表 11.26 のようになった。現在までの住民の結束や意欲が重要であると認識されている。この結束を維持し、復興ができることを願っている。

12. 玄界島の復興の課題

玄界島の復興は生活再建の2本柱(住宅と仕事)のうち、住宅の再建をいかに行うかがポイントである。ボーリング調査の結果、斜面地全体が滑るような大規模な土砂移動現象が発生する恐れは少ないと報告されている。したがって危険な斜面に防災工事を行えば、斜面地に住宅再建は可能な状況にある。住宅と斜面の宅地・道路が大きな被害を受けていることから、一旦住宅を解体して道路・排水施

表 11.24 今後住宅を再建・確保する場所をお教えてください

N=130 (複数回答)		
項 目	人	%
島内のどこでも良い	51	39.2
以前に住んで居た所	45	34.6
以前に住んで居た所の近く	21	16.2
島外	4	3.1
その他	20	15.4

表 11.25 希望する住宅の種類をお教えてください

N=147 (複数回答)		
項 目	人	%
一戸建て住宅(個人)	85	57.8
公営住宅	42	28.6
集合住宅(共同)	28	19.0
民間賃貸住宅	2	1.4
その他	11	7.5

設などを整備した後に住宅地を配置する一体的・面的な整備が必要である。斜面地に住宅や宅地を持つ住民も認識は同じで、斜面地に道路・宅地を確保する方針の下に復興の基本構想がまとまりつつある。住宅については一戸建て住宅、共同住宅、公営住宅等の選択が経済力の有無、年齢層、後継者の有無などによって生じてくるはずである。全員参加の復興でこの大きな壁を乗り越えて欲しい。行政も住宅再建者の立上りを支援するシステムを考えてほしい。雲仙普賢岳の火山災害や阪神・淡路大震災では、農地、農機具、家畜、工場、店舗などの生活再建に必要な収入源が大きな被害を受けた。今回の玄界島の震災では、漁船、漁場、漁港施設、倉庫などの被害は軽微であったので、生活再建には取り組み易い側面があり、自宅再建は可能であると判断されるが、高齢者などの世帯もあるので、きめ細かい配慮が必要である。

現在の復興の論点は住宅であるが、斜面地の防災や平地の津波対策などの安全対策をきちんと評価しておくことも必要であるが、この点の議論はこれからである。東側の崖の補強、東側の斜面の崩壊対策を行っておけば、上部での住宅地の確保や下側の公営住宅の安全性が高まる。下側の平地については津波対策として宅地のかさ上げも検討しておくことが望まれる。地元の人には南側は博多湾に向いているため、大きな津波はないと判断しているようである。いずれにせよ、防災工事のノウハウと住宅地の確保についての専門的検討が望まれる。この中から、宅地の確保や支援方策についてアイデアが出てくる可能性がある。たとえば、工事の残土を活用したかさ上げなども検討できるのではと考えている。個人の負担についても各種事業との関連についても調査しておくことが望まれる。漁業の振興などの活性化策についても、基盤整備や住宅の再建策と同時に検討しておくことが必要で、島原市、深江町、神戸市、虻田町の復興計画⁷⁾のように、生活の再建、防災まちづくり、地域の活性化の3本柱による対応が復興を考え易い。

13. まとめ

- 1) 地震発生頻度が少ない地域でも鳥取県西部地震、新潟県中越地震および福岡県西方沖地震のように、震度6、マグニチュード7クラスの地震が発生していることを考えると、九州においても市町村の地域防災計画の地震対策編がないところは早急に整備すべきである。予防対策として家具の固定、ブロック塀の補強、避難所の整備、小中学校校舎の耐震補強などを計画的に行う必要がある。
- 2) 災害時に行政から住民に確実に情報伝達できる防災行政無線の同報無線が整備されていない市町村では、検討すべきである。津波警報などを地域に伝える手段としては防災行政無線やヘリコプターが有効と考える。また、今回の地震では職員の招集が固定電話、携帯電話の輻輳でできなかったことから携帯メールやポケットベルの活用などが望まれる。
- 3) 最近導入され大災害を経験していない都市システムについては、バックアップシステムを含めて災害時の対応をマニュアル化しておくことが必要である。
- 4) 多くの島民が応急仮設住宅に住んでいる玄界島については今後、応急仮設住宅の構造改善や周辺環境の整備が進むことが考えられる。特にかもめ広場ではひろば利用者との分離や住宅内の垣根などの工夫、玄界島では生活環境の整備を居住者が中心となっていくことが望まれる。
- 5) 住宅の確保、家族や隣近所がばらばらになったことなどから応急仮設住宅入居者の精神的ストレスは大きい。被災者が病院にいく状況にないことから訪問サービスなどの実施が望まれる。
- 6) 従来の町内会や回覧システムなどの地域のネットワークが崩壊しているため、応急仮設住宅の団地ごとに町内会や班を再構成して、連絡システムを早急に立ち上げることが望まれる。復興対策の検討結果が住民に直接届く復興・再建ニュースなどを発行する広報活動の担当の設置など、組織としての取り組みができる運営が必要である。
- 7) 将来、斜面の住宅地が整備された後に住民が住宅を確保し住めるようにするためには、宅地、道路だけでなく、安全性、地域の活性化などの総合的な視点からの復興計画の策定、その進行管理などの議論が必要である。

謝辞

玄界島における現地調査・地域防災計画等の資料入手については、福岡市市民局・土木局の協力を得るとともに、市町村アンケート調査に当たっては福岡県下 85 市町村の協力を得た。また、各機関のホームページ、朝日新聞、西日本新聞、毎日新聞および読売新聞を参照したことを付記する。さらに、住民アンケート調査を行うにあたり、かもめ広場と玄界島の応急仮設住宅の居住者、玄界島内の市営住宅および自宅居住者にアンケート調査で協力を得るとともに、配布・回収にあたっては長崎大学大学院生河野祐次君および、末吉龍也君、工学部学生杉山豊隆君および河内健吾君の支援を得た。

最後に、被災者および被災地の早い復興を祈っていることを申し添える。

参考文献

- 1)中央防災会議国土庁防災局：防災基本計画，1995.7.
- 2)高橋和雄・大塚秀徳：地域防災計画における地震対策の策定状況に関する調査 - 市・区を対象に，自然災害科学，Vol.18，No4，pp.477-487，2000.2.
- 3)京都大学防災研究所編：防災計画論，山海堂，pp.31-32，2003.9.
- 4)消防庁編：平成 15 年度消防白書，ぎょうせい，2003.12
- 5)福岡市防災会議：福岡市地域防災計画(地震対策編)，2004.6
- 6)(株)サーベイリサーチセンター：福岡県西方沖の地震についてのアンケート調査報告書，全 43 頁，2005.5.
- 7)例えば，島原市：雲仙・普賢岳噴火災害 島原市復興計画，全 226 頁，1993.3.

福岡県下西方沖地震で被災した玄界島被災者アンケート

御中

長崎大学工学部
高橋 和雄

拝啓 時下、益々のご清栄のこととお慶び申し上げます。

平成 17 年 3 月 20 日の福岡県西方沖地震の被災をお見舞い申し上げます。被災地区の復旧・復興が順調に進むことをお祈り申し上げます。玄界島にはこれまで、3 回上陸して調査させていただきましたが、住宅、宅地の被害の大きさに大きなショックを受けました。負傷した方々の者の全快をお祈り申し上げます。

平成 17 年 3 月 20 日の福岡県西方沖地震および平成 17 年中越地震を経験して、地震はどこでも起こりうるということが、再確認されました。これらの地震を契機に地震対策を見直すことが必要と考えています。地震などの防災対策は、災害の課題と教訓をもとにバージョンアップされています。今回の地震についても先ず調査し、地域防災計画へ反映させていくことが必要と考えています。

今回の福岡県西方沖地震について土木、建築、地盤などの学会が調査活動に取り組んでいます。私は土木学会福岡県西方沖地震の調査団の副団長として、災害対応、避難、情報、復興などを担当しています。今後の地震対策を策定したり、玄界島の復興計画を策定するためには、実際に被害を受けられた皆様の地震時の対応、避難生活、復興への考えをお聞きする必要があると考えて、アンケートを企画しました。

地震後のお疲れのところ、またご多忙のところ申し訳ございませんが、よろしくお願ひします。

なお、アンケートの集計は統計的に処理しますので、特定の皆様の名前が出てくることはありません。

敬具

お送り頂くもの 1.アンケート回答

同封の封筒をお使ください。

連絡先

〒852-8521 長崎市文教町 1-14

長崎大学工学部社会開発工学科土木構造学研究室

高橋 和雄 河野 祐次 (大学院生)

電話 095-819-2610 FAX 095-819-2627

E-mail:takahasi@civil.nagasaki-u.ac.jp

福岡県西方沖地震における玄界島地震アンケート調査票(単純集計)

1. はじめに、あなたご自身についてお聞きします。

問1. あなたの性別をお教えてください。

N=179

項 目	人	%
(1) 男性	92	51.4
(2) 女性	83	46.4
(3) 無回答	4	2.2

問2. あなたの年齢をお教えてください。

N=179

項 目	人	%
(0) 10代	1	0.6
(1) 20歳代	4	2.2
(2) 30歳代	20	11.2
(3) 40歳代	39	21.8
(4) 50歳代	54	30.2
(5) 60歳代	27	15.1
(6) 70歳代以上	31	17.3
(7) 無回答	3	1.7

問3. あなたの職業をお教えてください。

N=179

項 目	人	%
(1) 漁業	61	34.1
(2) 自営工業	1	0.6
(3) 自営商業	3	1.7
(4) 会社員	12	6.7
(5) 公務員・団体職員	11	6.1
(6) 専門職・自由業	6	3.4
(7) 専業主婦	36	20.1
(8) 無職	33	18.4
(9) その他	11	6.1
(10)無回答	6	3.4

問4. 玄界島に何年くらいお住まいですか。

N=179

項 目	人	%
(1) 5年未満	3	1.7
(2) 5年以上10年未満	4	2.2
(3) 10年以上20年未満	8	4.5
(4) 20年以上30年未満	7	3.9
(5) 30年以上40年未満	17	9.5
(6) 40年以上	138	77.1
(7) 無回答	2	1.1

問5. 玄界島における地震前の家族をお教えてください。

- (1) 人数：_____人
 (2) 65歳以上の高齢者：_____人
 (3) 幼児・小学生：_____人

問6. 地震前の住宅についてお教えてください。

N=179

項 目	人	%
(1) 一戸建て(木造)	162	90.5
(2) 一戸建て(木造プレハブ、ツーバイフォー等)	0	0.0
(3) 一戸建て(鉄筋コンクリート造)	2	1.1
(4) 集合住宅(木造)	3	1.7
(5) 集合住宅(木造プレハブ)	0	0.0
(6) 集合住宅(鉄筋コンクリート造)	10	5.6
(7) その他	1	0.6
(8) 無回答	1	0.6

問7. 地震前の住宅は建築してからどのくらいたっていましたか。

N=179

項 目	人	%
(1) 5年未満	12	6.7
(2) 5年以上10年未満	16	8.9
(3) 10年以上20年未満	28	15.6
(4) 20年以上30年未満	63	35.2
(5) 30年以上	57	31.8
(6) 無回答	3	1.7

問8. 地震前のお宅は玄界島のどこにありましたか。

N=179

項 目	人	%
(1) 平地	74	41.3
(2) 斜面地	101	56.4
(3) 無回答	4	2.2

問9. 現在の住宅をお教えてください。

N=179

項 目	人	%
(1) 地震前の住宅と同じ	16	8.9
(2) 地震前の住宅と異なる(玄界島の応急仮設住宅)	81	45.3
(3) 地震前の住宅と異なる(かもめ広場の応急仮設住宅)	69	38.5
(4) 地震前の住宅と異なる(公営住宅)	6	3.4
(5) 地震前の住宅と異なる(民間アパート、空家、同居など)	7	3.9

問10. 現在の住居では、世帯分離(家族が別々に住む)が起こっていますか。

N=179

項 目	人	%
(1) いる	64	35.8
(2) いない	81	45.3
(3) 無回答	34	19.0

2. 地震発生前の災害に関する日頃の取組みについてお伺いします。

問1. 地震前に地域で日頃どのような災害に対する取組みをしていましたか。次のリストからいくつでもお選びください。

N=179

項 目	人	%
(1) 防火クラブ(婦人防火クラブなど)の結成	113	63.1
(2) 災害時などの連絡方法の決定	32	17.9
(3) お年寄り、病人等の把握	35	19.6
(4) 地区内の危険箇所の見回り	24	13.4
(5) 災害・火災などの講演会・映画会の開催	24	13.4
(6) 地区内の避難場所の確認	35	19.6
(7) 避難訓練	34	19.0
(8) 消火訓練	103	57.5
(9) その他	9	5.0
(10) 何もしていない	24	13.4
(11) 無回答	6	3.4

問2. あなたの家庭では、避難訓練等に参加したことがありますか。

N=179		
項 目	人	%
(1) ある	86	48.0
(2) ない	81	45.3
(3) 無回答	12	6.7

問3. 地震前に家庭内で、災害に備えてどのような取組みをしていましたか。次のリストからいくつでもお選びください。

N=179		
項 目	人	%
(1) 消火用水の用意（風呂に水をはる、バケツに水を汲んでおくなど）	52	29.1
(2) 消火器を用意していた	128	71.5
(3) 家具が倒れないようにしていた	6	3.4
(4) 非常持ち出しを用意していた	18	10.1
(5) 家族との連絡方法を決めていた	20	11.2
(6) 地震保険に加入していた	13	7.3
(7) ブロック塀の点検や転倒防止をしていた	7	3.9
(8) 懐中電灯や携帯ラジオを用意していた	83	46.4
(9) 非常食を用意していた	13	7.3
(10) その他	5	2.8
(11) 何もしていない	22	12.3
(12) 無回答	6	3.4

3. 地震発生時のことについてお教えてください。

問1. あなたは地震発生時に玄界島にいましたか。

N=179		
項 目	人	%
(1) いた	114	63.7
(2) いなかった	61	34.1
(3) 無回答	4	2.2

問2. あなたは地震発生時にどこにいましたか。

N=179

項 目	人	%
(1) 自宅にいた	80	44.7
(2) 会社・学校にいた	6	3.4
(3) 自宅・会社・学校以外の建物の中にいた	7	3.9
(4) 車・バイクなどで走っていた	0	0.0
(5) 電車・バスなどに乗っていた	0	0.0
(6) 漁船・連絡船に乗っていた	53	29.6
(7) 建物や車などの外にいた	9	5.0
(8) その他	23	12.8
(9) 無回答	2	1.1

問3. 地震が起こってから揺れが収まるまでの間、とっさにどんなことをしましたか。次のリストからいくつでもお選び下さい。

N=179

項 目	人	%
(1) じっと様子を見ていた	63	35.2
(2) 歩けなかった(動けなかった)	43	24.0
(3) 火の始末をしたり、ガスの元栓を締めたりした	60	33.5
(4) 家具や壊れ物を押さえた	5	2.8
(5) 安全な場所にかくれたり、身を守ったりした	30	16.8
(6) 頑丈なものに掴まって身体を支えた	19	10.6
(7) 子供や老人、病人などを保護した	40	22.3
(8) 戸、窓などを開けた	7	3.9
(9) 家や建物の外に飛び出した	36	20.1
(10) 建物の中に飛び込んだ	0	0.0
(11) 安全な場所に避難した	38	21.2
(12) 車・バイクを止めた	0	0.0
(13) 周りの人の安全を確かめようとした	25	14.0
(14) 無我夢中で覚えていない	7	3.9
(15) その他	32	17.9
(16) 無回答	17	9.5

問4. 地震当日困ったことは何ですか。次のリストの中からいくつでもお選びください。

N=179		
項 目	人	%
(1) 携帯電話・PHSが使えなかった	107	59.8
(2) 固定電話が使えなかった	62	34.6
(3) 家族との連絡が取れなかった	81	45.3
(4) 親戚や知人の安否がわからなかった	52	29.1
(5) どこに逃げてよいかわからなかった	34	19.0
(6) 何をしてよいかわからなかった	32	17.9
(7) 行政からの情報が少なかった	31	17.3
(8) 停電になった	25	14.0
(9) 水道が使えなかった	46	25.7
(10) 荷物が持ち出せなかった	72	40.2
(11) ペットを連れて行けなかった	13	7.3
(12) その他	20	11.2
(13) 無回答	8	4.5

問5. 地震後の災害の情報をどこから入手しましたか。次のリストからいくつでもお選び下さい。

N=179		
項 目	人	%
(1) 屋外からの人の声	55	30.7
(2) テレビ・ラジオ	92	51.4
(3) 家族や近所の人たちとの会話	68	38.0
(4) インターネットホームページ	0	0.0
(5) 警察、消防からの情報	24	13.4
(6) 携帯電話の情報サービス	4	2.2
(7) 島内の有線放送	12	6.7
(8) 福岡市の防災ヘリコプター	22	12.3
(9) その他	23	12.8
(10) 無回答	10	5.6

問6. 10時57分に津波注意報が発表されていたことを知っていましたか

N=179		
項 目	人	%
(1) 知っていた(付問6.1へ)	89	49.7
(2) 知らなかった(問7へ)	73	40.8
(3) 無回答	17	9.5

付問 6.1 津波注意報の入手はどこからですか。

N=89

項 目	人	%
(1) 屋外からの人の声	17	19.1
(2) テレビ・ラジオ	27	30.3
(3) 家族や近所の人たちとの会話	16	18.0
(4) インターネットホームページ	0	0.0
(5) 警察、消防からの情報	5	5.6
(6) 携帯電話の情報サービス	1	1.1
(7) 島内の有線放送	3	3.4
(8) 福岡市の防災ヘリコプター	0	0.0
(9) その他	3	3.4
(10) 無回答	34	38.2

付問 6.2 知ってどうしましたか。次のリストからいくつでもお選びください。

N=89

項 目	人	%
(1) 住宅が海岸部にあるので、高台に避難した	29	32.6
(2) 海岸近くにいたので、高台に避難した	15	16.9
(3) テレビ、ラジオの放送に気がつけた	26	29.2
(4) 携帯電話の情報サービスにアクセスした	3	3.4
(5) 家族や近所の人たちと相談した	12	13.5
(6) 何もしなかった	5	5.6
(7) その他	19	21.3
(8) 無回答	9	10.1

付問 6.3 昨年 12 月 26 日に発生したスマトラ地震の津波が頭に浮かびましたか。

N=89

項 目	人	%
(1) はい	73	82.0%
(2) いいえ	13	14.6%
(3) 無回答	3	3.4%

問7. あなたのご家庭では今回の地震で、家の中に閉じ込められたご家族がいましたか。

N=179

項 目	人	%
(1) いた(付問 7.1 へ)	14	7.8
(2) いなかった(問 8 へ)	155	86.6
(3) 無回答	10	5.6

付問 7.1 家の中からの避難救出についてお教えてください。

N=14

項 目	人	%
(1) 自力で避難した	4	28.6
(2) 家族によって救出された	7	50.0
(3) 近隣によって救出された	0	0.0
(4) 消防・警察等によって救出された	3	21.4
(5) 無回答	1	7.1

問 8. 地震発生から島外の避難所に避難するまでのあなたやご家族の行動を時間を追ってご記入下さい(特に、家族安否確認の時間、一次集合所に集まった時間、港を出発した時間等は必ずご記入ください)。

時 間	内 容
10 時 53 分	地震発生
	別 紙
___ 時 ___ 分	玄界島出発
___ 時 ___ 分	避難所到着

4. 地震による被害についてお聞きします。

問 1. 今回の地震では、大変な被害に遭われましたが、ご家族の被災についてお聞かせください。

N=179

項 目	人	%
(1) 家族全員が無事であった	148	82.7
(2) 家族が軽傷を負った	19	10.6
(3) 家族が重傷を負った	4	2.2
(4) 無回答	8	4.5

問2. 家屋の被害についてお教えてください。

N=179		
項 目	人	%
(1) 全壊した	40	22.3
(2) 半壊した	63	35.2
(3) 一部が損壊した	53	29.6
(4) ほとんど被害がなかった	13	7.3
(5) 全く被害がなかった	0	0.0
(6) 無回答	10	5.6

問3. 家具などの家財道具の被害はどうでしたか。

N=179		
項 目	人	%
(1) たんすなど安定した大きなものが倒れた	120	67.0
(2) 倒れはしなかったが、扉が開いて、家の中の食器などが壊れた	47	26.3
(3) 花瓶や額縁などの比較的小さいものが壊れたり、落下したりした	6	3.4
(4) 被害はなかった	1	0.6
(5) 無回答	5	2.8

問4. 住宅の被害調査結果についてお教えてください。

N=179		
項 目	人	%
(1) 危険	121	67.6
(2) 注意	30	16.8
(3) 調査済み(安全)	25	14.0
(4) 無回答	3	1.7

問5. お宅では住家の周辺で被害がありましたか。次のなかから当てはまるものをいくつかでもお選びください。

N=179		
項 目	人	%
(1) 石垣や擁壁が壊れた	91	50.8
(2) ブロック塀が壊れた	73	40.8
(3) 崖が壊れた	51	28.5
(4) 納屋や蔵などの非住家が被害を受けた	28	15.6
(5) 建物の基礎の地盤に陥没、隆起、亀裂が入った	23	12.8
(6) その他	19	10.6
(7) 無回答	20	11.2

問6. 宅地の被害調査結果についてお教えてください。

N=179		
項 目	人	%
(1) 危険	113	63.1
(2) 注意	22	12.3
(3) 調査済み(安全)	27	15.1
(4) 無回答	17	9.5

5. 今回の地震における行政や防災機関の対応についてお聞きします。

問1. 今回の地震において、地震直後の安否確認、島外避難、避難所の運営、救援物資などの配布のスピードはどうでしたか。

N=179		
項 目	人	%
(1) 早かった	114	63.7
(2) まあ早かった	34	19.0
(3) 普通だった	12	6.7
(4) やや遅かった	8	4.5
(5) 遅かった	7	3.9
(6) 無回答	4	2.2

問2. 今回の地震において、地震直後の安否確認、島外避難、避難所の運営、救援物資の配布などの対応はどうでしたか。

N=179		
項 目	人	%
(1) 十分だった	113	63.1
(2) まあ十分だった	42	23.5
(3) 普通だった	8	4.5
(4) やや不十分だった	6	3.4
(5) 不十分だった	5	2.8
(6) 無回答	5	2.8

問3. 地震後の生活支援メニューなどの情報の入手は次のどれでしたか。次のなかから当てはまるものをいくつでもお選びください。

N=179		
項 目	人	%
(1) インターネット	2	1.1
(2) 自治会長からの連絡	97	54.2
(3) 新聞	65	36.3
(4) テレビ・ラジオ	64	35.8
(5) 説明会・集会	94	52.5
(6) 知人による口コミ	38	21.2
(7) FAX	0	0.0
(8) 電話	10	5.6
(9) 携帯電話の情報サービス	4	2.2
(10) その他	6	3.4
(11) 無回答	15	8.4

問4. 生活支援メニューの内容をどの程度知っていますか。

N=179		
項 目	人	%
(1) 良く知っている	8	4.5
(2) 大体知っている	42	23.5
(3) 少し知っている	53	29.6
(4) ほとんど知らない	48	26.8
(5) 無回答	28	15.6

6. 集団避難生活が1ヶ月以上ありましたが、集団避難についてお聞きします。

問1. あなたのご家族はどんな避難生活を送りましたか。

N=179		
項 目	人	%
(1) 家族全員が集団避難した(問2へ)	107	59.8
(2) 家族の一部が集団避難した(問2へ)	46	25.7
(3) 家族全員が集団避難しなかった(7へ)	7	3.9
(4) 無回答	19	10.6

問 2. 集団避難生活は現在終了していますが、今後の集団避難対策の参考にするため、ご記入ください。

・ 避難所の機能(生活する場として)

・ 運営方法

別 紙

・ 情報伝達

・ ボランティアの活動

7. 現在、応急仮設住宅にお住まいの世帯にお聞きします。現在応急仮設住宅にお住まいの方のみお答えください。お住まいでない方は 10 頁の 8.にお進み下さい。

問 1. 現時点で応急仮設住宅の構造上の問題点と思われることがあれば、次のリストの中からいくつでもお選びください。

N=179		
項 目	人	%
(1) すきま風が入る	43	24.0
(2) となりの物音が聞こえる	122	68.2
(3) プライバシーが保てない	50	27.9
(4) 湿気が多い	56	31.3
(5) 暑いまたは寒い	119	66.5
(6) 洗濯物の干し場がない	54	30.2
(7) 収納スペースが少ない	103	57.5
(8) 玄関がない	57	31.8
(9) 仏壇が置けない	18	10.1
(10) 風呂・トイレが使いにくい	22	12.3
(11) 気になる段差がある	20	11.2
(12) その他	31	17.3
(13) 無回答	34	19.0

問2. 現時点で応急仮設住宅の周辺環境で問題点と思われることがあれば、次のリストの中からいくつでもお選びください。

N=179		
項 目	人	%
(1) 敷地内の水はけが悪い	74	41.3
(2) 車の走行などの騒音が気になる	65	36.3
(3) 風除けのフェンスがない	19	10.6
(4) ベンチや花壇等の緑地がない	24	13.4
(5) 駐車場がない	7	3.9
(6) 公民館(集会場)がない	4	2.2
(7) 近くに店舗がない	7	3.9
(8) バス停や駅まで遠い	9	5.0
(9) その他	25	14.0
(10) 無回答	47	26.3

問3. 応急仮設住宅で生活していて問題点と思われることがあれば、次のリストの中からいくつでもお選びください。

N=179		
項 目	人	%
(1) 買い物に不便	36	20.1
(2) 病院通いに不便	28	15.6
(3) 通勤や通学に不便	11	6.1
(4) 友人や話し相手がいないこと	11	6.1
(5) 火災の心配	19	10.6
(6) 行政からの情報が入りにくいこと	33	18.4
(7) 火災、急病などの緊急面の対応	23	12.8
(8) 盗難などの防犯面の対応	48	26.8
(9) 環境、衛生などの健康面	41	22.9
(10)その他	12	6.7
(11) 無回答	61	34.1

8. 今後の玄界島の復興についてお聞きします。

問1. 現在の生活の中で困っていることや不安に思っていることは何ですか。次のなかから当てはまるものをいくつでもお選びください。

N=179		
項 目	人	%
(1) 余震による被害の拡大	115	64.2
(2) 梅雨時の大雨による宅地の崩壊	122	68.2
(3) 家族がばらばらになったこと	46	25.7
(4) 住宅再建の目途が立たないこと	96	53.6
(5) 避難生活の長期化	71	39.7
(6) 応急仮設住宅の居心地が良くないこと	38	21.2
(7) 近所がばらばらになったこと	30	16.8
(8) 当面の仕事、収入	51	28.5
(9) 災害による精神的ストレス	76	42.5
(10) プライバシーが確保できないこと	30	16.8
(11) 復興計画が見えないこと	77	43.0
(12) その他	14	7.8
(13) 無回答	13	7.3

問2. 今後の復興で重要なことは何ですか。次のなかから当てはまるものをいくつでもお選びください。

N=179		
項 目	人	%
(1) 住宅の再建	117	65.4
(2) 公営住宅の建設	82	45.8
(3) 漁業の振興	57	31.8
(4) 斜面地の住宅地の再整備	97	54.2
(5) 斜面地の道路、水道、下水道の整備	76	42.5
(6) 斜面や崖の防災工事	84	46.9
(7) 避難路の整備	67	37.4
(8) 津波対策	48	26.8
(9) サイレンなどの情報伝達システムの整備	52	29.1
(10) 自主防災組織の結成	28	15.6
(11) 消防団の結成	12	6.7
(12) 地震による災害遺構(石碑、石垣等)の一部保存	36	20.1
(13) その他	7	3.9
(14) 無回答	22	12.3

問3. 今後住宅を再建・確保する場所をお教えてください。

N=179

項 目	人	%
(1) 以前に住んで居た所	48	26.8
(2) 以前に住んで居た所の近く	21	11.7
(3) 島内のどこでも良い	56	31.3
(4) 島外	5	2.8
(5) その他	21	11.7
(6) 無回答	39	21.8

問4. 希望する住宅の種類をお教えてください。

N=179

項 目	人	%
(1) 一戸建て住宅(個人)	90	50.3
(2) 集合住宅(共同)	31	17.3
(3) 公営住宅	45	25.1
(4) 民間賃貸住宅	2	1.1
(5) その他	11	6.1
(6) 無回答	22	12.3

(1)

問5. これから復興に向けて、大事だと思うことを次のなかから当てはまるものをいくつかでもお選びください。

N=179

項 目	人	%
(1) 地域住民の復興にかける意欲	120	67.0
(2) 地域住民のまとまり	133	74.3
(3) 行政の情報提供	88	49.2
(4) 復興アドバイザーなどの専門家の支援	101	56.4
(5) 制度の弾力的運用などの規制緩和	55	30.7
(6) その他	20	11.2
(7) 無回答	18	10.1

- 3・問8 地震発生から島外の避難所に避難するまでのあなたやご家族の行動を時間を追ってご記入下さい。
 (特に、家族安否確認の時間、一次集合所に集まった時間、港を出発した時間は必ずご記入ください)。

No.1

時 間	内 容
10時53分	地震発生 長女のマンションに避難

No.2

10時53分	地震発生
17時	玄界島出発
21時	避難所到着

No.6

10時53分	地震発生
13時頃	公民館に避難
16時30分	玄界島出発
18時	避難所到着

No.7

10時53分	地震発生 玄界支所の事務所にいた 島の状態を把握していた
--------	------------------------------------

No.8

10時53分	地震発生
18時	避難所到着

No.9

10時53分	地震発生
	皆息子の指示で動き船で娘の住んでいる久留米まで避難
16時15分	玄界島出発

No.10

10時53分	地震発生 母は近所の人に連れられ避難 安全を確かめた後空き地で待機 揺れがおさまり公民館で対応した
17時	玄界島出発

No.11

10時53分	地震発生 漁をやめ帰港し小学校で家族と合流 公民館に避難し玄界島を出る
23時	玄界島出発
24時	避難所到着

No.13

10時53分	地震発生 家族の安否確認 公民館に避難
23時50分	玄界島出発
25時20分	避難所到着

No. 14

10時53分	地震発生 後片付け 漁道具倉庫に避難
17時	玄界島出発
23時	避難所到着

No. 15

10時53分	地震発生 高台に避難 家族と連絡 娘の家に避難
14時40分	玄界島出発

No. 16

10時53分	地震発生 子供の家に避難
17時	玄界島出発

No. 20

10時53分	地震発生
17時30分	玄界島出発
19時	避難所到着

No. 21

10時53分	地震発生 高台に避難 公民館がいっぱいだったので網修理場所に
18時30分	玄界島出発
19時30分	避難所到着 (主人は22時 23時)

No. 23

10時53分	地震発生 家族の安否確認 1次集合所へ
16時	玄界島出発
19時	避難所到着

No. 24

10時53分	地震発生 公民館へ避難
15時	玄界島出発
16時	避難所到着

No. 25

10時53分	地震発生
17時30分	避難所到着

No. 26

10時53分	地震発生 公民館へ避難
18時	玄界島出発
19時	避難所到着

10時53分	地震発生 小学校へ避難
21時	玄界島出発

10時53分	地震発生
16時頃	公民館にいきました
17時	玄界島出発
18時	避難所到着

10時53分	地震発生
	腰の怪我のため車椅子で高台へ避難
18時	玄界島出発

10時53分	地震発生
	大事なものだけ持ち集合場所に避難
18時	玄界島出発
18時50分	避難所到着

10時53分	地震発生
11時	公園へ避難 島民の安否確認
19時	玄界島出発
20時	避難所到着

10時53分	地震発生
11時	公民館へ避難
12時	安否確認
14時	海岸にいた
15時	集合所にいた
17時30分	玄界島出発
20時	避難所到着

10時53分	地震発生
12時	家族と再会
13時	避難所へ
17時	玄界島出発
18時	避難所到着 (息子23時 24時)

10時53分	地震発生
11時	公民館へ 2時間後大きな船に乗る 2時間ぐらいじっとしていた その後体育館へ

10時53分	地震発生 すぐに外に出た 高台に上った 家族の確認
--------	------------------------------------

10時53分	地震発生
11時	子供から電話
12時	夫が帰宅
14時	公民館に避難
17時	体育館に避難
17時	玄界島出発

10時53分	地震発生
13時	妻と連絡

10時53分	地震発生
11時	小学校へ避難
	公民館へ

10時53分	地震発生
17時	玄界島出発
18時30分	避難所到着

10時53分	地震発生
	津波対策として小学校へ避難

10時53分	地震発生
11時	小学校へ避難
12時	公民館へ避難
17時	玄界島出発

10時53分	地震発生
	屋外脱出高台へ
12時	安否確認
	待合所待機
14時20分	玄界島出発
16時	避難所到着

10時53分	地震発生
11時	帰島
	安否確認
16時	両親が避難
23時30分	玄界島出発
25時	避難所到着

10時53分	地震発生
16時	玄界島出発
17時30分	避難所到着

10時53分	地震発生
11時	島に到着
	安否確認
深夜	玄界島出発
深夜	避難所到着

10時53分	地震発生
	貴重品を持って公民館へ
	神社、学校の見回り
17時	玄界島出発
19時	避難所到着

10時53分	地震発生
16時15分	玄界島出発
18時	避難所到着

10時53分	地震発生
	家族を避難させ見回り
	島に残り話合い
23時	玄界島出発
25時	避難所到着

10時53分	地震発生
11時	公民館へ避難
16時	玄界島出発
22時30分	玄界島出発
23時30分	避難所到着

10時53分	地震発生
11時	外へでる
	高台へ逃げる
	安否確認
17時30分	玄界島出発
19時30分	避難所到着

10時53分	地震発生
11時	帰島
12時	安否確認
17時	玄界島出発

10時53分	地震発生
23時	玄界島出発
25時10分	避難所到着

10時53分	地震発生
11時	地震に気づく
13時	玄界島へ
	貴重品を持ち避難所へ
18時20分	玄界島出発

10時53分	地震発生 海岸部から来た人たちを小学校へと誘導 家族との連絡
18時30分	玄界島出発
20時	避難所到着

10時53分	地震発生
22時	玄界島出発
23時	避難所到着

10時53分	地震発生 小学校へ避難 親戚の安否確認 家族の帰りを待つ 公民館で待機
17時30分	玄界島出発
19時30分	避難所到着

10時53分	地震発生
11時	小学校に避難
12時	家族の避難している広場へ
15時	公民館へ避難
17時30分	玄界島出発
18時20分	避難所到着

10時53分	地震発生 神社で待機 夫の安否確認
14時	公民館へ避難
17時30分	玄界島出発

10時53分	地震発生
11時	家族を呼びに行く 小学校へ避難 ガスなどを止める
14時	公民館へ避難

10時53分	地震発生
11時	11時高台に逃げた
14時	14時夫が帰宅 網小屋に避難
17時30分	玄界島出発

10時53分	地震発生
12時	帰島 家族と会う 校庭から公民館へ避難 家族を見送る
22時30分	玄界島出発
23時40分	避難所到着

10時53分	地震発生 そのとき、彼岸の中日でしたので仏様におはぎでもと思ってあんを作っていました。わたしは1人ですので、「ゴーン」と音がきてから横に揺れてきて、怖くて筆筒など何もかもが倒れ、これは地震かなと思いこたつの中にいました。一番に気づいたのは、ガスの元栓電気のスイッチを切って、体ひとつで逃げました。とても怖くて頭から離れません。
--------	--

10時53分	地震発生 漁協の広場にいった。(消防隊の人に公民館に避難してくださいといわれた) 公民館に避難 自衛隊の人と上着を取りに自宅に戻る。 公民館に戻る
17時頃	避難所到着

10時53分	地震発生
10時54分	近所にある神社に家族5人で避難した。
11時	近隣の救出や避難誘導、安全確保にあたる。
13時	近隣の人30人くらい連れて公民館に自主避難
15時～16時	高台にある実家に身の回りの(5人分)の洋服やお金、貴重品を取りに戻る。
17時30分	玄界島出発
19時	避難所到着

10時53分	地震発生
11時	自宅近くの空家に避難して家族の指示
15時	漁協に避難(漁協の指示にて)
17時30分	九電体育館に避難した。
16時	玄界島出発
17時30分	避難所到着

10時53分	地震発生 母は家にいて、救出されるまで家に居た。その後、公民館に避難。 夫は漁に出ており、すぐに玄界島に戻り、母を救出。 妻と子供は、船上(ニュー玄界)にいた。11時に博多について、13時の船で折り返し玄界島に戻る。13時30分に玄界島に到着し、そのまま公民館に避難する。母と再会。
18時	玄界島出発
19時	避難所到着

10時53分	地震発生
10時53分	船中のテレビの速報で知る。
11時30分	博多埠頭着
11時40分	長浜公団アパート(娘二人)に着。
12時10分	博多駅前全日空ホテル着(ホテル内のテレビを見る)
14時	結婚式
18時	結婚式終了
19時	姪浜妹宅に着。
20時	姪浜
20時	玄界島出発
21時	避難所到着

10時53分	地震発生 公民館に集合と連絡有 公民館に集合と連絡有
--------	----------------------------------

10時53分	地震発生 家族6人中5人が家の中で、娘1人が公民館で安全との連絡有り。
11時	家族1人公民館から大人に送られ通れる道を選んで帰ってきた(全員の安全確認)。
11時05分	津波が来るという声で、全員小学校へ避難する。(近所40人ほど) 小学校でブルーシートを敷き、救急用具などの世話、雨が降り出し、下るどうか迷う(余震によるがけ崩れ、運動所のひび割れの広がり)
13時30分	消防団の人が着て降りれる道があるとの情報で全員で下山。
18時30分	玄界島出発
20時	避難所到着

10時53分	地震発生 公民館に嫁は15時ごろいく。その時間ごろいろいろと。 港出発は19時ごろ、九電体育館に行く。 夫は自治会一員として、消防の方と各家庭の電気ブレーカー、ガスの元栓締め、地震対策本部(漁協事務所)に行く。いろいろの話で22時53分便で玄界島出発して24時近くに体育館に到着して、地震の強さ災害を知る。
22時53分	玄界島出発
24時	避難所到着

10時53分	地震発生
15時	一時避難で玄海島公民館に行く。
17時30分	その後、玄海島を出発して、九電体育館に避難する。
17時30分	玄界島出発
18時	避難所到着

10時53分	地震発生 集合場所に集まった、義父母、義妹は時間ははっきり覚えていない 夕方主人が漁から帰る。 第一便で出発、義父母、義妹 最終便で主人が避難所到着。
--------	---

10時53分	地震発生
11時	ベイサイドにつく。地震発生を聞き携帯で連絡を取るが、通じず。 改札の電話を駆り自宅へかけ、様子を聞き船を出すようお願いし船に乗る
11時30分	船に乗る。
12時	島へ戻る。公民館へ行き、子供の確認をして、自宅へ戻る。 公民館で小学生の人数確認。トイレの水を井戸のある家へもらいに行く。 ご飯のある家庭から持ってきたご飯をおにぎりにし、お年寄りや子供に配る 怪我をしている人の消毒などをするため、診療所へいく。 公民館がいっぱいになったので作業所へ子供を父母を連れて行く。
16時	全島避難の放送。

10時53分	地震発生
12時30分	病院でおばあちゃんの手当てのため。 フェリー乗り場。

10時53分	地震発生
11時	家の外に居た。
13時	公民館に避難した。
17時	福岡に船で移動。
18時	ベイサイドに到着。
18時	玄界島出発
19時30分	避難所到着

10時53分	地震発生 地震発生時より約10分間くらいで、家財道具、賢愚が損壊した。 屋根瓦、裏の石垣がくずれおちる。
12時40分頃	署の署員の方より全島避難だからすぐ家を出よう指示された。 水道水が出ていれば妻と家に残りたいと思ったけど、水が出ず、 家に残ることをあきらめた。 再三の西署署員の方の指示で家を出て(署員の助けで)公民館へ行き、渡海船に乗る。
16時50分	玄界島出発
17時55分	避難所到着

10時53分	地震発生 2時間、何もするまもなく
12時30分	玄界島出発
13時	避難所到着

10時53分	地震発生
11時	小学校に向かって避難。 小学校に行く道が崩れていたの、途中の民家の畑で避難。
14時30分	公民館に避難(家族全員)
16時30分	知人の船で避難し、福岡の家族の家に1泊し、次の日九電の避難所へ行く

10時53分	地震発生
11時	外に出て高台に避難。
12時	公民館に避難させる。
12時30分	民家を見回る。
14時	安全な場所に待機する。
23時～24時	玄界島出発
25時30分	避難所到着

10時53分	地震発生 母と2人で茶の間に座っていました。あら地震だと母に言って、私はすぐ立ち上がって下に出たら、横の仏壇が倒れ、母の後ろの茶棚が倒れ、母の上を過ぎて向こう側に倒れ母は無事でした。下に下りるには母を下ろさなければ、ただそれだけで貴重品も持ってこないで身体1つで下りてきました。 母は自衛隊の方4、5人で下ろしてくださいました。胸が痛いという母を診療所に連れて行き、先生に診てもらい、タンカで船まで行った。私より1便早い船で行っていました。私たちは1便後の船で行きました。 母が病院に行っていましたので私は病院に、ほかの人たちはバスで体育館に行きました。 私は、22時に体育館に帰りました。
--------	---

10時53分	地震発生 津波注意報が出ると思い、船に乗せて待機させた。
11時47分	津波解除されたので、公民館に戻り、島民の誰がいないかを確認、救助活動に急ぐ。 その間、家族に島から離れるようにあらかじめ伝え、渡船で福岡に渡らせた。 その間はずーと救助に一生懸命でした。 夜中1:30ごろ、船で島を離れ、九電記念体育館へ行きました。
25時30分	玄界島出発
26時50分	避難所到着

10時53分	地震発生
11時30分	小学校へ 公民館へ

10時53分	地震発生
12時	公民館
17時	玄界島出発
18時	避難所到着

10時53分	地震発生
10時53分	テーブルの下に避難(父を除く)
11時	揺れが小さくなると部屋を移動。隣人に声をかける。 何もできずに部屋にとどまっている。
11時30分	親戚の人が家に駆けつけてくれたので、小学校のグラウンドへ避難した。 そのまま待機して様子を見る、
12時	父が漁から帰ってきて、玄界小学校で合流。
13時	グラウンドにもひびが増えてきたので、別の場所に移ろうということになったので玄界島公民館に移動。
14時	公民館に到着。
17時45分	玄界島出発
19時30分	避難所到着(自分たちは市内の親戚宅へ避難)

10時53分	地震発生
	自宅
	自宅外へ、島の周囲を見渡せるところ。 島海岸(中央)へ島の状況を見に。
17時30分	玄界島出発
20時	避難所到着

10時53分	地震発生
11時05分	階段を上って高台に避難。
13時	沖から船(主人が乗っている船)が帰ってきたのでどうしてよいか話し合った。
14時	家の荷物を少しとって大事なものを手提げに入れた。
15時	網小屋(大きい建物)の中に毛布や食べ物を少し持って避難した。
17時	玄界島出発
18時	避難所到着

10時53分	地震発生
12時	漁に出ていた主人が帰宅。 本土側実家母と連絡がつく。
13時	家の中、周りを見て回る。
14時	残りご飯でおにぎりを作り、食べ物を確保。 家の中のそのまま食べられる物を集める(缶詰、お菓子他)。
15時	公民館避難のため、倒れたたんすなどから、防寒着、お金、布団(毛布)探し出す。
15時30分	本土側が安全ということで、子供と2人で実家へ避難が決定。港まで行く。
16時15分	玄界島出発

10時53分	地震発生
	すぐに二階から下へ、長男、次男、義父母の安否確認。 テレビで津波のを知り、子供に来ると上着を用意させ、家の外へ。 そのときすぐ(ガスの元栓、ブレーカーをおろし)親戚の人が来てくれたので、義父母を頼み、取りあえず自分は上のほうにある親戚の方へ預け、股下へ行き義父母のところへ。 子供たちのところへ義父母をおき、その家では電気がついてたのでテレビで情報を聞いて、津波の危険がないことを知り、長女と義父母の薬を取りに戻った。 その途中で、仕事へ行っていた主人と会い、多分12時近かったと思う。 一時集合場所(公民館)へ、主人は船(市営船の仕事へ)。 私は、公民館で色々なお手伝いへ。 婦人消防、婦人会会員の方はそれぞれ自分のできることをした。

10時53分	地震発生
12時	小学校職員緊急連絡
15時30分	博多港発(→玄界島へ)
16時	玄界島到着。児童の安否確認。
18時	玄界島出発
20時	避難所到着

10時53分	地震発生
12時	公民館へ
18時30分	玄界島出発
19時50分	避難所到着

10時53分	地震発生
11時	祖母はたすけられる(10M下にがけ崩れで落ちる)
11時05分	自宅から一時避難場所に子供二人と妻避難する
11時50分	主人が家族の元に戻る。
12時30分	祖母を妻がヘリコプターで病院に搬送(鎖骨骨折)2ヶ月入院後現在通院中。
12時45分	残りの家族(祖父、子供二人)をしたの漁具倉庫(避難場所)に連れて行った。 避難場所の安全確認。 組織レベルで、島民の安否確認。飲み物確保(三ヶ所の避難場所まで運ぶ)。 道路上のブロックを撤去する。
18時30分	残りの家族島外避難。
18時50分	組織で今後の対応を協議する。
23時	玄界島出発
24時	避難所到着

10時53分	地震発生
16時	玄界島出発
17時	避難所到着

10時53分	地震発生
	平地の人に高台に避難指示。
13時	老人、博多病院に定期船に乗って連れて行く。
16時	帰島して、また老人を定期船に送る。
17時	帰宅して、少し荷物を持ち出す。
17時30分	待機。
22時	自衛隊から指示があり、22時に集合。
23時	玄界島出発
24時30分	避難所到着

10時53分	地震発生
10時30分	市営渡船に乗る。息子の結婚式のため。
24時	妹のマンションに避難。
10時30分	九電記念体育館に避難。

10時53分	地震発生
	電気ブレーカを切り外に出る、 津波のことを考え、他人を誘導しながら高台へ避難。 家族に安否連絡。 ラジオにて津波警報解除の報を確認。公民館に集合。 公民館より渡船にて、博多、九電体育館に避難。

10時53分	地震発生
11時15分	小学校へ避難。
13時	公民館へ移動。 公民館で電話の対応。 老人の身の回りの世話。
16時	福岡のアパートに住む子供たちへの連絡つく。
17時30分	玄界島出発
18時30分	避難所到着

10時53分	地震発生 高台の畑に子供3人を連れて避難。 津波解除の情報を聞く。そして、沿岸沿いの倉庫(避難所)に移動。
12時	漁に出ていた主人を確認。 雨がばらばら降り出し、冷え込んだので一旦、家に毛布や上着を取りに戻る。 避難所で待機。
13時	
15時	全島民避難勧告の知らせを聞く。
18時30分	ひとまず大宰府の兄の家に子供3人と泊まりに行く。

10時53分	地震発生
11時10分	ガス、電気、のものを切る。
11時30分	外に避難する。
12時	本家のガス、電気を切りに行く。
13時30分	島内を見回る。
13時40分	少し寒かったので、家の中に入る(テレビを見る)。
14時	自衛隊が様子を見に来る。
14時50分	自衛隊、消防が様子を見にくる。
15時30分	避難するように自衛隊が来るが自分の家が安全のため断る。
16時	全島民に避難するように通達有。
16時10分	西区役所(保険課の人が老人を病院に入院する手配をしてくれたので避難することにした。 非常にありがたかった。)
16時30分	自衛隊の救護班が来る。
16時40分	初めて地区の消防団が来る。
17時	消防船では方に避難する。
17時50分	国立医療センター着(老人)
22時	九電体育館着地区の人からの連絡見回りがなかったことがおかしい。

10時53分	地震発生 船の上で魚を釣っていると、「ガタガタ」と、船が揺れて思わず、船首と船尾を確認したが、異常なし、近くの島(小呂島)を見ると、煙を上げて崩れていて、「地震」を予測した。 島の家族に電話するが繋がらず、安否が気になり、全船が島へ引き返す。 島へ着き、家族の安否、島の状況を確認後すぐに残った島民の救助作業を開始。 若手の漁業者(10代~50代)は残り、それ以外の島民は当該へ避難。 公民館に集まり、今後のことの話し合い。 現在の状況を確認、様子を見ていた。 余震の数、揺れが強くなり、全島民、避難決定。
--------	--

10時53分	地震発生 一時は公民館に避難いたしましたが、公民館も危険にあるということで消防艇で市の九電体育館のほうに全島民が避難いたしました。
--------	--

10時53分	地震発生
11時05分	博多埠頭着
11時30分	結婚式場着 親戚の家へ。

10時53分	地震発生 小5の娘が離れた場所にいたため、上の娘を連れて呼びに行く。 (無事を確認して父・母・娘2人・私とで畑から民家のほうへ移動) 実家の中を確認して神社のところへ避難。 主人が漁から帰ってきて、神社で家族みんなの無事を確認。 神社から公民館へ移動(そこに一緒に避難してた20~30人で)
--------	--

10時53分	地震発生 私は親戚のうちにて、中学生二人が自分たちで犬を連れて家からぬけだして私と組合の裏であった。 そして家族で中学のほうに避難した。
--------	--

10時53分	地震発生
11時15分	妻、母の安全確認のため実家に急行。
11時20分	公民館にて避難確認。自宅に戻る。
11時30分	大事なものの収集。家の戸締り、整理。
13時	公民館に避難。
17時30分	玄界島出発
18時25分	避難所到着

10時53分	地震発生 父と母、と継いだ娘、孫、親類と家にいた。 地震の後すぐ親類は家へ。私と娘、孫を連れて毛布一枚をもち小学校へ。 運動場に着くとまだひとりも島民が避難していなく、不安だった。 70歳をこした両親には2人で後をついて学校へ来るように私だけ後で学校から家のほうに行くと島民が学校の通学路を登ってくる姿を見て安心した。 後で、津波の心配がないことで漁協の近くにみんなで集まった。 私は玄界島出発は、3回目に出る船に乗った。 九電には早く着き、最初についた。
--------	---

10時53分	地震発生 玄界島待合所の勤務をしてました。 最後まで島民の博多まで避難させる仕事をしてました。 最後の島外へ出る船の便に乗りました。 そのときのじかんはおぼえていません。 最後の時間は20時でした。
--------	--

10時53分	地震発生
12時20分	弁当を買って食べ、ベイサイドへ向かう。
13時	船に乗る。
14時	玄界島へ到着。 家族の安否確認(公民館)、世帯主、ヘリで搬送。 島の住民の点呼、安否確認及び、ガスの元栓、ブレーカーを切り忘れた家を消防団の方に伝える。 炊き出し準備。
16時	全島民避難を聞く。
18時	玄界島出発
19時	避難所到着

10時53分	地震発生
11時30分	小学校の校庭
13時	公民館。
16時15分	玄界島出発

10時53分	地震発生
17時	玄界島出発
18時30分	避難所到着

10時53分	地震発生 他薦と無線で連絡を取り合う。帰島を始める。 家族と合流。
12時	倉庫へ避難。
16時	荷物の持ち出し。 渡船場集合 待機。 テレビの津波情報を聞いて。家のブレーカーを落とした課題へ避難。 レスキューの方と島民の安否点検等をする。
18時	玄界島出発
19時30分	避難所到着

10時53分	地震発生 直ちに家族に電話を入れるが通じない。 次の出向まで時間があるため、市営渡船臨時便にて島に戻る。 中1の長女が家に1人でいたため、島に到着すると同時に家に向かったが、妻と長女は揺れが収まった後、高台へ避難していた。 次に実家の母親や甥らを避難誘導し、意向は島内の老人(足の悪い人)等を避難させ、事故処理に追われる。
--------	---

10時53分	地震発生
11時20分	小鷹神社に避難した。
16時15分	玄界島出発。

10時53分	地震発生 地震のときは、仕事が休みで家にいた。 誰かの叫び声で、津波が来るので上のほうに上れと聞こえ、母を連れて小学校まで行く。 その途中、石垣が崩れて道が通れない。また、別の道を行くが、そこも瓦や石垣が崩れて通れない。みんなで助け合ってやっとたどり着きました。 ところが学校の運動場が大きく亀裂が生じて、ここも危険だとのことで、避難場所の公民館に戻る。多分、2時を過ぎていた。 私は仕事(玄界渡船所)に出るので、母を妹に預けて午後4時に船着場。 それからずっと島民の避難が始まる 私たちは最終便で九電体育館に。
20時	玄界島出発
20時45分	避難所到着

10時53分	地震発生 高台へ 共同集合場所 島外避難。
--------	--------------------------------

10時53分	地震発生
12時	漁具倉庫に避難した。
13時	家に荷物をとりに行く。
15時	船に乗るが、なかなか船が出発しなかった。最後になった。

10時53分	地震発生 小学校。 中学校。 公民館。 九電体育館。
--------	--

10時53分	地震発生 博多にいた。
15時30分	定期船にて玄界島に着。 家の状況を見に行った。
17時	玄界島公民館に到着。
23時	玄界島出発
24時	避難所到着

10時53分	地震発生
11時30分	帰島
12時	組合に集まる
13時30分	話し合い
16時30分	玄界島出発
17時	避難所到着

10時53分	地震発生
11時	高台へ避難
13時	家に帰る

10時53分	地震発生
12時	公民館に避難 夫が帰港
17時	玄界島出発
19時	避難所到着 (夫; 23時出発 24時到着)

10時53分	地震発生 水上消防団なので最後に玄界島出る
23時30分	玄界島出発
24時30分	避難所到着

10時53分	地震発生 家族と行動をともにする
12時	玄界島出発
13時	避難所到着

10時53分	地震発生
18時30分	玄界島出発
20時	避難所到着

10時53分	地震発生 外にいて公民館へ避難
17時30分	玄界島出発
18時30分	避難所到着

No. 175

10時53分	地震発生
23時	玄界島出発
24時	避難所到着

No. 176

10時53分	地震発生
17時	玄界島出発
19時	避難所到着

No. 177

10時53分	地震発生
	博多で買い物
	九電から娘の家へ
17時30分	玄界島出発
21時20分	避難所到着

6・問2 集団避難生活は現在終了していますが、今後の集団避難対策の参考にするため
ご記入ください。

(a) 避難所の機能

No.	内 容
6	よくしてあった。
9	空気が悪く体調の悪化した。
10	プライバシー、換気がない。
11	狭いこと。
14	健康、衛生面。
18	最低限の広さ。
21	空気の入れ替えがなく空気が乾燥していた。
23	物音で寝れなかった、トイレが不便。
24	プライバシーがない。
25	少々のプライバシーはあった。
34	家族全員で生活できる広さがほしい。
42	空気が悪く風邪が流行。
45	狭い。
47	伝染病の流行, 食生活の困難。
48	荷物を置く場所がない。
54	プライバシーについて。
57	欲を言えばきりがない。
62	区切りのようなものが欲しかった。
63	プライバシーの確保、自炊設備。
65	子供、老人には体育館では無理。
66	仕切りがあったほうがよい。
68	風通しが悪い。
69	衛生面で心配。
70	幼児がいる家庭を他に移動して欲しかった。
72	1ヶ月になると障害があったと思う。
77	体調を崩した。
81	衛生面に注意してほしい。
84	窮屈だった。
86	洗濯が大変(女の日と毎日夜中、2時~3時くらいまでかかる) (洗濯機、乾燥機少ない)。
90	集団生活ですので、多少のことは大目に見ないとだめだと思いました。
99	良い
100	場所的には問題はなかったが、ほとんどプライバシーがなかった。 共同生活をするにあたってのプライバシーや約束事などを自治会などから もらいたかった。
103	なんといっても狭いのが困っています。
104	食事の店が多いところ、病院の近いところ。
105	プライバシーの保護(空気が悪かったので子供が風邪が移った。
107	広いところ。
109	日常生活をするには狭くて、自分の思うとおりにならず、ストレスがたまりました。 個人のプライベートがなく他人とのトラブルも発生したりして、1ヶ月が半年のよう に感じました。
110	満足だがスペースが狭かった。
111	プライバシー等がないのはとてもつらかった。家族の時間が作れず、ずっと周りを 気にしてなければならぬのはつらかったが、体育館にシャワーがついてたりした ので助かった。
114	九電記念体育館内での集団生活をする上で贅沢言えばきりがありません。 ストレスで体調を崩しました。
116	流行病の感染が多かった。他はよかった。寒さが多少厳しかった。
120	最低ぎりぎり。
122	九電体育館での生活はとても大変でした。眠るときの布団が最初のころはなくて、 コンクリートの上に毛布を1枚引いただけでした。

132	福岡である規模の地震は初めてなのに、迅速かつ被害者がすごしやすいように対応して下さったと思います。
135	プライバシーが保てないため、長期化すると精神的にストレスが溜まる。
138	初めの内は弁当が続いたので体調が崩れた。病気が伝染していくので大変だった。プライベートのなさがやはり気になった。
141	狭すぎる。
142	すべてにおいてすごく助けていただき感謝いたしております。私たち、島民の方が感謝の気持ちを忘れて、失礼な態度をとったなどと聞き、悲しくなり、申し訳なく思っております。
147	耐震建物で喚起よく中が広く、衛生面に充実。
149	わからない場所でしたのでなかなか道がなれない。
150	体育館だったのでシャワー等があつて助かりました。生活は集団生活なので疲れしました。
153	よくない。
157	充実していたと思う。

(b) 運営方法

No,	内 容
10	島民が考え運営していけば良かったがショックで難しい状態であった。
11	班長を決めた。
14	自治会とブロック。
21	秩序がなかった。
34	各団体が連携していく。
63	相談して人選。
70	支援物資が入る、入らないで不満があった。
71	自治会の設立。
82	町内会が主で行政と一体となって指示されました。各町内組が班に分かれた。
84	よかった。
88	別に問題ない。
89	自治会からの情報伝達をこまめに行う。
93	避難場所の確保を十分に行うべきだと思う。
96	良い。
99	良い。
100	問題はないが、食事の量、メニューの偏りなどが気になった。
107	体育館。
109	まあまあ満足でした。
111	自治会がしっかりしてほしい。
114	役所の方々が(かゆいところに手が届く)かんじでありがたく思っています。
116	自治会の運営が機能していなかった。行政は、まあよかった。
121	みんな体調が悪かった。
122	生活するための援助物資が次から次へと不自由なく与えられた。風呂と洗濯には人数の割には洗濯機とか少なく、干す場所もなかった。
132	不審者の侵入を防止するために、入り口を何箇所もふさいでしまったのを見たときには、いざ避難となった時にはパニックになるのではないかと不安に思う時がありました。
136	島内に人家族何人いるか、また、避難したときに何人いるか、名簿を作って人数が合うかよく確かめて人命救助に当たってほしい。
138	救援物資が来たとき、放送が行き届かず、ほとんどもらえなかった。(バーゲンセールだった)
147	各持ち場において責任者の選任、話し合い、内容指導。
153	よい。
157	よかったと思う。
161	一部の人で決めているようだった。

(c) 情報伝達

No.	内 容
9	早かった。
10	十分得られた。
14	ブロックがやりやすい。
18	マスコミにより十分だった。
21	テレビ、ラジオ。
23	伝わりにくかった。
24	ある程度得ることができた。
25	あまりわからない。
34	自治会を中心にできていた。
48	新聞、テレビ。
54	テレビや新聞。
57	情報が入りにくかった。
63	班長による伝達。
68	新聞、テレビ。
69	町内の役員や放送案内。
70	困った。
73	良くしてもらいたい。
77	新聞やテレビ。
84	よかった。
88	すべてのことについて情報が遅れている。
89	新聞、テレビ等をよく見えること。
90	やはり不満があるので、情報は確実にしてほしい。
93	誰もが避難場所がどこかわかるような情報伝達を。(定期的に情報を流すことが大事)
96	やや良い。
99	良い。
100	伝わってないことばかりだった。ほとんど新聞で知った。
104	マスコミの協力。
105	マスコミの人たちが多くいたので、あまりゆっくりできませんでした。
107	テレビ、ラジオ。
109	少しある部分で情報が届かなかったりしましたが玄界島、みんな、団結してますので早いほうだと思います。
110	すべての人に伝わることは難しいようで、何事も知っている人だけが得した感じ。
111	マスコミの方からの情報が早かったので、友達からの伝達のほうが早かった。
112	情報の取得が不規則。
114	テレビ自治会の役員さん。
116	よかった。
121	良かった。
122	地震の情報は新聞・テレビで流されたけど、玄界島がどんな状態になってるとかの情報が少なく不安でした。
135	全員に情報が伝達できていないこともあった。
136	すくない。わからないことが多い。情報がわからない。地区の消防、そのほかからの連絡、情報がなかった。
138	新聞が毎日もらえてかなりよかった。
147	順序、連絡体制。
153	よい。
157	適切だった。
161	なにもない。

(d) ボランティアの活動

No,	内	容
6	良くしてくれた。	
7	良くしてくれた。	
9	良くしてくれた。	
10	人数の制限、人柄やよく知っている人が参加してほしい。	
13	良くしてくれた。	
14	十分だった。	
18	非常に助かった。	
20	良くしてくれた。	
23	感謝している。	
24	ありがたい。	
25	感謝している。	
26	よくしてくれた。	
29	いきすぎの所が少しあった。	
30	良くしてくれた。	
34	互いに助け合う。	
39	感謝している。	
40	頭が下がる思い。	
42	良くしてくれた。	
47	行き届いたと思う。	
48	良くしてくれた。	
53	感謝の一言。	
54	ありがたい。	
56	今でもありがたい。	
57	一部の人がわがままだった。	
63	できることは自分です。	
65	感謝です。	
66	ありがたかった。	
68	一部の人が態度が悪かった。	
69	お話やマッサージをしてくれた。	
70	善意に感謝します。	
71	感謝しています。	
72	感謝の気持ち。	
73	良かった。	
74	ペットでトラブルがあった。	
75	恩返しができればいい。	
76	感謝の気持ちでいっぱいです。	
77	感謝の気持ちで忘れることは無いです。	
82	ボランティア活動も活発でした。	
83	今回の避難生活で、大変助かり、子供たちも遊んでいただき、コミュニケーションがとれ感謝しています。	
84	よかった。	
86	99%感謝している。1%押し売りの変な人が入ってきた。	
88	色々なことについて感謝している。	
89	大いに役に立ちます。	
90	私は、避難所に居なかったけど面会するたびにボランティアの活動には感謝していました。	
95	色々な方たちにお世話になりました。	
96	普通	
99	非常に良い。	
100	子供たちの世話など感謝しています。問題はなかった。	

103	もう少し活動してもらいたい。病人が次々に出たので、玄界島から荷物を運び出すのに誰も行けず、こんな困ったことはありません。家族、親類等皆年寄りで運んでもらう人がなく、一番上から運ぶのでなかなかでした。何日でもかかって運ぶのに私たちはそれができませんでした。最後になって運んでもらいました。涙が出ました。とてもうれしくて本当にありがとうございました。
104	十分でした。
105	皆さんに良くしていただきました。
109	ボランティアの方々には色々親切にしてくださいました。これほどありがたいと思ったことはありません。むしろ私達の方がマナーがなってないのではと感じました。
110	満足、ありがたかった。
111	とてもよくされましたし、感謝するばかりです。
112	本当に感謝
114	全国から多くの方々の励まし、物品の差し入れ等、ボランティアの皆さんには頭が下がる思いです。立場が逆転するとどれだけのことが恩返しできるか、いつも心に思っています。でもちよっぴり、親切の押し売り、そっとしとってと感じたことも何回か感じたのは、平常心じゃいられないときの私だけでしょうか。ごめんなさい。
116	よかった。
120	良い。
121	良かった。
122	食事の手伝いからマッサージ、心のケア、色々な分野で活躍していただき、大変感謝しています。
132	とても親切にしてくださって、心が温まりましたが、ゆっくり眠りたいときに、多少わずらわしくなるときもあったのも事実です。 (丸電では正直、ゆっくり寝るのになれない時期がありましたから。)
135	大変良くしていただき感謝しております。
136	非常によかったと思う。
138	大型テレビもつけてくれていたし、助かった。
139	ボランティアの方に良くしてもらいました。
142	本当に良くしてもらいました。
147	色々な面での指導、和、思いやり。
149	よくしてくれています。ありがたいことがよくわかります。
150	数がそろっていないのに、勝手に出してきたため、もらった人ともらえなかった人がいて混乱した。数がそろっていないので、わざわざ団体名を書いてストックしていたのに、責任者が変わるの伝わってなく勝手に出されていた。後はたくさんの方々色々な面でよくしてくれた。
153	たいへんよい。
157	とても行き届いていた。
161	ボランティアの方がよくしてくれました。
167	良くしてくれた。

その他の内容

3・問2 あなたは地震発生時にどこにいましたか。

No,	内	容
1	ホームセンター。	
2	病院。	
3	病院に入院。	
4	親戚の家にいた。	
5	福岡市内。	
6	漁をしていた。	
7	博多の病院。	
8	道路で仕事。	
9	浜のわかめ小屋。	
10	博多買い物。	
11	老人憩いの家。	
12	彼岸で親戚に仏様参りに家に居た。	
13	実家に居ました。	
14	親戚宅。	
15	山で畑仕事をしていたとき。	
16	娘2人が家にいた。	
17	老人憩いの家。	
18	市営住宅。	
19	畑。	
20	親戚の家にいた。	
21	天神。	
22	道を歩いていた。	
23	畑にいた。	
24	博多行き、買い物中。	

3・問3 地震が起こってから揺れが収まるまでの間、とっさにどんなことをしましたか。
次のリストからいくつでもお選び下さい。

No,	内	容
1	船尾に強い揺れを感じた。	
2	地震とはわからなかった。	
3	船で揺れは感じないが斜面が崩れ地震とわかった。	
4	漁をしていた。	
5	近くの食べ物を持って逃げた。	
6	コタツの下にもぐった。	
7	船の安全確認。	
8	道路にうつぶせにしていた。	
9	電話した。	
10	孫の身を守った。	
11	地震とは気付かなかった。	
12	船で海面が持ち上がった。	
13	漁中。	
14	無線が入り急いでかけつけた。	
15	ガスの元栓を締めて、電気のスイッチを切った。	
16	船ががたがた揺れたのでべらに何か巻いたかと思った。	
17	自治会の一員としていろいろな手助けをした。	
18	船の揺れを地震だとは思わなかった。	
19	突き上げ、横揺れが激しく家の中にいるのが精一杯であった。	
20	消防の格納庫に走った。	
21	テーブルの下に隠れた。	
22	二階で長女と2人だったので子供にものが当たらないよう抱き上げて、揺れが止まるまでそのままだった。	
23	海上で作業中の船に異変が起きた。	

24	市営渡船に乗っていた。
25	津波の心配で、高台にある小学校へ避難した。
26	船上にいたのでわからなかった。電話をしてもつながらなかった。
27	94歳の母は青年部の方が避難所に連れて行ってくれた。
28	連絡線に乗っていた。
29	船員の安否確認・船のエンジン等の点検。
30	連絡線の船体に異常を感じた。スクリーンに物を巻いたような感じが数秒間起きた。
31	エンジンストップで何事かと思った。情報を知って父母が心配になった。
32	揺れが激しく歩くことも出来ず座って収まるのを待った。

3・問4 地震当日困ったことは何ですか。次のリストの中からいくつでもお選び下さい。

No.	内 容
1	貴重品の持ち出しが不可。
2	けがが人の対応にまどった。
3	自販機が使えなかった。
4	確実な情報が入手できなかった。
5	地震の規模がわからなかった。
6	飲み物がなく、のどが渇いてつらかった。避難所で足が不自由だったのでトイレが遠くて困った。
7	無回答。
8	船の中なので。(渡海船)
9	避難先の小学校の校舎、運動所とも安全でなかった(倒壊、地割れの広がり)。ラジオも電池が取れなかったので、使えなかった。
10	避難所から家に帰れず、そのまま福岡の体育館に連れて行かれた。
11	96歳になる母をどうやってしたまでおろしたらいいかわからなくて困った。
12	報道のヘリで拡声器を使用されてる声が聞こえず、迷惑でした。小学校までの道が建物が壊れたり階段が崩れたりで上にいけずどの道を通っていいかわからなかった。
13	老人に対しての気配りがなかった(情報連絡が4時間なかった)。
14	勝手に我が家に入ることができなかった。
15	島内の放送が使用できなかったこと。
16	朝から食事が取れなかった。
17	トイレが使用できなかった。
18	障害者。
19	長期避難生活になると思わず、衣類等を何も持ち出していなかった。
20	24時ころテレビで地震の様子、強さを知る。

3・問5 地震後の災害の情報をどこから入手しましたか。
次のリストからいくつでもお選び下さい。

No,	内	容
1	漁友に知らされる。	
2	メール。	
3	漁船に知らせ。	
4	船の無線。	
5	消防団。	
6	友達の電話。	
7	無線で知った。	
8	博多の長男から。	
9	無線電話。	
10	代表として一人だけ校舎に入り、テレビを通して入手。	
11	24時ころテレビで地震の様子、強さを知る。	
12	船のラジオで知った。	
13	新聞。	
14	横の船から連絡を受けた。	
15	自分の目、または歩いて確認。	
16	消防団の人がラッパで知らせた。	
17	知人とのメール。	
18	無線。	
19	連絡船船場で油協関係者より電話が通じた。	
20	漁船の無線。	
21	島外の私の実家の母からの電話。	

3・付問6. 2 知ってどうしましたか。次のリストからいくつでもお選び下さい。

No,	内	容
1	土砂崩れがあると思い船に避難。	
2	どこが安全かわからず平地にいた。	
3	小学校へ。	
4	消防団の指示。	
5	砂浜にいた。	
6	公民館でラジオ。	
7	見回りをした。	
8	公民館へ避難。	
9	高台へ避難。	
10	学校へと誘導していた。	
11	早速帰港した。	
12	避難したところが高台だったので、そのまま情報に注意して子供、老人、体の安全を守った。	
13	島へ戻るため船を出してもらった。(沖海は安全だと聞いた。不安だったが子供が気になり戻った。)	
14	避難所にそのまま居た。	
15	家族を船に乗せ、ラジオを聴いて待機した、	
16	避難所の公民館へ。	
17	島民の人に高台に避難の指示をした。	
18	消防団より指示があったので、火災予防のため電気のブレーカーを切った。	

7・問1 現時点で応急仮設住宅の構造上の問題と思われることがあれば、次のリストの中からいくつでもお選び下さい。

No,	内 容
1	雨音が響く虫の侵入が多い。(玄界島仮設住宅)
2	虫の被害。(玄界島仮設住宅)
3	雨漏り。(玄界島仮設住宅)
4	そのときの気候がダイレクトにくる。(玄界島仮設住宅)
5	もの置き場がない。(玄界島仮設住宅)
6	雨のときに困る。(玄界島仮設住宅)
7	業者により違う。(玄界島仮設住宅)
8	狭い。(玄界島仮設住宅)
9	虫が多い、狭い。(玄界島仮設住宅)
10	網戸をつけて欲しい。(玄界島仮設住宅)
11	急工事のため隙間壁の貼ってない所。(玄界島仮設住宅)
12	虫が入りやすい。(玄界島仮設住宅)
13	よくして頂いて、もったいないくらいです。何もいうことはありません。 (かもめ広場仮設住宅)
14	特にない。(かもめ広場仮設住宅)
15	せまい。(かもめ広場仮設住宅)
16	2部屋の間の壁が使いづらい。クーラーの風が来ない。(かもめ広場仮設住宅)
17	とくになし。(かもめ広場仮設住宅)
18	家族3人で生活しているが狭い。(夫婦とも障害者であるためベッド2つ置いている) (かもめ広場仮設住宅)
19	玄関を別々のところにしてもらえたらと思います(同じところなので)。 (かもめ広場仮設住宅)
20	網戸がきれいに閉まらず、虫などが入ってくる。(かもめ広場仮設住宅)
21	網戸をつけてほしい。(かもめ広場仮設住宅)
22	急いで立てたためか、畳の隙間、流し台の隙間など多い。コンセントの出っ張り、壁に画鋸も止まらない。(かもめ広場仮設住宅)
23	家族の人数に合わせて大きさを分けてほしかった。(かもめ広場仮設住宅)
24	玄関に網戸がない。家族の人数に対して、部屋がせまい。(かもめ広場仮設住宅)
25	網戸が少ない。(かもめ広場仮設住宅)
26	玄関が同じ場所なので思いもしないクレームがつく。(かもめ広場仮設住宅)
27	業者によって作りが違う(不公平)。部屋が狭い、鍵を子供が開けてしまう。 (かもめ広場仮設住宅)
28	狭すぎる。(かもめ広場仮設住宅)
29	部屋を壁で区切りしてあるが、エアコンが1つしかないので、区切りを少し空けてエアコンが2つの部屋に通るようにしていないため光熱費も余計かかる。 光熱費も余計かかる。風呂トイレの換気が悪く小窓が必要、とにかく狭すぎます。 家族構成を聞いたうえで建設していないのが大きな問題であると思います。 (かもめ広場仮設住宅)
30	網戸がほしい。(かもめ広場仮設住宅)
31	玄関の網戸がないため通風が悪い。(かもめ広場仮設住宅)

- 7・問2 現時点で応急仮設住宅の周辺の環境で問題点と思われることがあれば、次のリストの中からいくつでもお選び下さい。

No,	内 容
1	洗濯物が潮気を帯びる雨天の干し場がない。(玄界島仮設住)
2	風当たりが強い。(玄界島仮設住)
3	なにもない。(玄界島仮設住)
4	ハエが多い。(玄界島仮設住)
5	雨音などの騒音。(玄界島仮設住)
6	台風が波が打ち寄せてこないか。(玄界島仮設住)
7	猫のえさのやり方。(玄界島仮設住)
8	玄関がないので雨の時困る。(玄界島仮設住)
9	土砂崩れしそうな場所が近い。(玄界島仮設住)
10	各自の洗い場が欲しかった。(玄界島仮設住)
11	海岸の道路の整備。(玄界島仮設住)
12	雨降りが困る。(かもめ広場仮設住宅)
13	子供の広場がない。(かもめ広場仮設住宅)
14	とくにない。(かもめ広場仮設住宅)
15	かもめ広場のため、夜遊びの人たちがうるさい。(かもめ広場仮設住宅)
16	車のスピードが激しすぎる、見知らぬ人の出入りが激しい。(かもめ広場仮設住宅)
17	とくにない。(かもめ広場仮設住宅)
18	車が多いのと、仮設に住んで2ヶ月なのに下着をとられたとかのトラブルが多いようです。(かもめ広場仮設住宅)
19	不審者まがいの人たちが来ることが多い。夜中の交番や見回りが必要・大事。(かもめ広場仮設住宅)
20	車の走行(交通量も)多いので危険と思うことがある。(かもめ広場仮設住宅)
21	子供の通学中に事件、事故等が心配。子供の遊び場等がない(かもめ広場仮設住宅)
22	子供の遊び場がないことが最も重要です。洗濯物を干していてもフェンスが途中で切れているため道路から目に入る。若者が酔っ払って海岸近くで花火をしたり大きい声を出したり海へ飛び込みをしたりでとても怖いです。(かもめ広場仮設住宅)
23	近くの人が入りすぎ。以前は公園だったとはいえ、今は仮設住宅が建っているのだから遠慮してほしい。(かもめ広場仮設住宅)
24	船にいたずらをする。海辺にあるため深夜の花火や暴走の爆音や大きな話し声。(かもめ広場仮設住宅)

- 7・問3 応急仮設住宅で生活していて問題点と思われることがあれば、次のリストの中からいくつでもお選び下さい。

No,	内 容
1	台風による災害。(玄界島仮設住宅)
2	防犯面。(玄界島仮設住宅)
3	車の音と暴走族の車の音がうるさい。(かもめ広場仮設住宅)
4	深夜から明け方まで、若い人たちが花火をしたり、大声で叫んでいるので眠れない。また、玄界を中傷するような落書きをしていき、自分たちのことをよく思っていない人たちが居るのでは...心配。(かもめ広場仮設住宅)
5	とくになし。(かもめ広場仮設住宅)
6	子供が安心して思いっきりのびのびと遊べる場がほしいです。車の通りが激しいことと、不審者の出入り。(かもめ広場仮設住宅)
7	とくにない。(かもめ広場仮設住宅)
8	近くに交番があれば安心できますが。(かもめ広場仮設住宅)
9	地震前の住宅などのローン返済プラス今後の住宅建設費用・船の維持費。(かもめ広場仮設住宅)
10	治安が悪い。(若者が何かやりそう)。(玄界出て行け！(玄界死ね！))と落書きされているので。(かもめ広場仮設住宅)
11	部屋が狭いことからの圧迫感によるストレス。二世帯になっているための光熱費などの出費。(かもめ広場仮設住宅)

8・問3 今後住宅を再建・確保する場所をお教え下さい。

No,	内	容
1	利便性の確保できるところ。	
2	家族で検討中。	
3	安全であればどこでも良い。	
4	個人では考えれない。	
5	島の平地。	
6	海岸の平地。	
7	下の方。	
8	安全なところ。	
9	希望は以前の場所。	
10	余震が続く中、「以前住んでいたところ」を確保したいが、安全面を重視したい。	
11	はっきり決められない。	
12	余震がなければいいけど。	
13	数年前に家を建て、そのローンとは別にまた家に対してのお金は出せないのので、復興の仕方でも島内、島外もわからない。	
14	わからない。	
15	現時点ではまだ迷っています。	
16	できたら海岸の宅地がよい。石垣は危険です。	
17	ぜんぜんまだわかりません。	
18	安全な場所だったら。	
19	平地。	
20	なし。	
21	未定。	

8・問5 これから復興に向けて、大事だと思うことを次のなかから当てはまるものをいくつかもお選び下さい。

No,	内	容
1	行政による資金の支援。	
2	心身両面の健康。	
3	復興計画の情報の公開。	
4	行政支援。	
5	収入面、仕事、職場をたくさんほしい。	
6	一部の人が優先的にならないように。特に場所、仮設住宅の分け方に問題あり	
7	一人ひとりの意見要望を誠実に聞くこと。	
8	個人についていろいろと知りたい。	
9	早急に島の将来像の案ができ、行政の最大限の復興支援の実現を切望いたします。	
10	行政支援金。	
11	島に対しての義捐金もありがたいが、個人の復興が先にないと始まらないので、個人にも義捐金を回してもらいたい。	
12	子や孫のためにも将来性が必要です。	
13	地域住民のモラル。	
14	島民の話し合い。総会がもっとも大事。まとめようとして上の意見を無理に押し付けないこと。	
15	権力で決めてほしくない。	
16	復興委員会で話し合った内容の報告。	
17	島民のみなさんが平等であること。	
18	心身の健康を取り戻す。	
19	ボーリングなどで地質をよく調査して安全な場所をお願いしたい。急ぐ必要ないです。	

玄界島とかもめ広場における応急仮設住宅の問題点の差

問 1. 現時点で応急仮設住宅の構造上の問題点と思われることがあれば、次のリストの中からいくつかもお選びください。

項 目	全体 (N=150)		玄界島 (N=81)		かもめ広場 (N=69)	
	数	%	数	%	数	%
(1) すきま風が入る	43	28.7	29	35.8	14	20.3
(2) となりの物音が聞こえる	120	80.0	72	88.9	48	69.6
(3) プライバシーが保てない	48	32.0	27	33.3	21	30.4
(4) 湿気が多い	55	36.7	30	37.0	25	36.2
(5) 暑いまたは寒い	118	78.7	66	81.5	52	75.4
(6) 洗濯物の干し場がない	53	35.3	27	33.3	26	37.7
(7) 収納スペースが少ない	99	66.0	54	66.7	45	65.2
(8) 玄関がない	56	37.3	34	42.0	22	31.9
(9) 仏壇が置けない	18	12.0	13	16.0	5	7.2
(10) 風呂・トイレが使いにくい	20	13.3	10	12.3	10	14.5
(11) 気になる段差がある	19	12.7	7	8.6	12	17.4
(12) その他	31	20.7	12	14.8	19	27.5
(13) 無回答	9	6.0	6	7.4	3	4.3

問 2. 現時点で応急仮設住宅の周辺の環境で問題点と思われることがあれば、次のリストの中からいくつかもお選びください。

項 目	全体 (N=150)		玄界島 (N=81)		かもめ広場 (N=69)	
	数	%	数	%	数	%
(1) 敷地内の水はけが悪い	73	48.7	43	53.1	30	43.5
(2) 車の走行などの騒音が気になる	65	43.3	15	18.5	50	72.5
(3) 風除けのフェンスがない	18	12.0	10	12.3	8	11.6
(4) ベンチや花壇等の緑地がない	23	15.3	19	23.5	4	5.8
(5) 駐車場がない	7	4.7	3	3.7	4	5.8
(6) 公民館(集会場)がない	3	2.0	2	2.5	1	1.4
(7) 近くに店舗がない	7	4.7	5	6.2	2	2.9
(8) バス停や駅まで遠い	8	5.3	3	3.7	5	7.2
(9) その他	24	16.0	10	12.3	14	20.3
(10) 無回答	22	14.7	15	18.5	7	10.1

問3. 応急仮設住宅で生活していて問題点と思われることがあれば、次のリストの中からいくつでもお選びください。

項 目	全体 (N=150)		玄界島 (N=81)		かもめ広場 (N=69)	
	数	%	数	%	数	%
(1) 買い物に不便	33	22.0	29	35.8	4	5.8
(2) 病院通いに不便	27	18.0	14	17.3	13	18.8
(3) 通勤や通学に不便	10	6.7	7	8.6	3	4.3
(4) 友人や話し相手がいないこと	10	6.7	5	6.2	5	7.2
(5) 火災の心配	19	12.7	9	11.1	10	14.5
(6) 行政からの情報が入りにくいこと	32	21.3	13	16.0	19	27.5
(7) 火災、急病などの緊急面の対応	22	14.7	9	11.1	13	18.8
(8) 盗難などの防犯面の対応	47	31.3	11	13.6	36	52.2
(9) 環境、衛生などの健康面	39	26.0	23	28.4	16	23.2
(10) その他	12	8.0	3	3.7	9	13.0
(11) 無回答	36	24.0	23	28.4	13	18.8

問3. 地震が起こってから揺れが収まるまでの間、とっさにどんなことをしましたか。
次のリストからいくつでもお選び下さい。

項 目	全 体 (N=162)		船に乗っていた人の割合 (N=52)	
	数	%	数	%
(1) じっと様子を見ていた	63	38.9	15	28.8
(2) 歩けなかった(動けなかった)	43	26.5	5	9.6
(3) 火の始末をしたり、ガスの元栓を締めたりした	60	37.0	6	11.5
(4) 家具や壊れ物を押さえた	5	3.1	0	0.0
(5) 安全な場所にかくれたり、身を守ったりした	30	18.5	5	9.6
(6) 頑丈なものに掴まって身体を支えた	19	11.7	2	3.8
(7) 子供や老人、病人などを保護した	40	24.7	5	9.6
(8) 戸、窓などを開けた	7	4.3	0	0.0
(9) 家や建物の外に飛び出した	37	22.8	5	9.6
(10) 建物の中に飛び込んだ	0	0.0	0	0.0
(11) 安全な場所に避難した	38	23.5	6	11.5
(12) 車・バイクを止めた	0	0.0	0	0.0
(13) 周りの人の安全を確かめようとした	25	15.4	3	5.8
(14) 無我夢中で覚えていない	7	4.3	3	5.8
(15) その他	33	20.4	19	36.5
(16) 無回答	17		14	

問3. 地震が起こってから揺れが収まるまでの間、とっさにどんなことをしましたか。
次のリストからいくつでもお選び下さい。

項 目	全 体 (N=162)		島にいた人の行動の割合 (N=114)	
	数	%	数	%
(1) じっと様子を見ていた	63	38.9	44	38.6
(2) 歩けなかった(動けなかった)	43	26.5	34	29.8
(3) 火の始末をしたり、ガスの元栓を締めたりした	60	37.0	51	44.7
(4) 家具や壊れ物を押さえた	5	3.1	4	3.5
(5) 安全な場所にかくれたり、身を守ったりした	30	18.5	24	21.1
(6) 頑丈なものに掴まって身体を支えた	19	11.7	15	13.2
(7) 子供や老人、病人などを保護した	40	24.7	33	28.9
(8) 戸、窓などを開けた	7	4.3	7	6.1
(9) 家や建物の外に飛び出した	37	22.8	33	28.9
(10) 建物の中に飛び込んだ	0	0.0	0	0.0
(11) 安全な場所に避難した	38	23.5	33	28.9
(12) 車・バイクを止めた	0	0.0	0	0.0
(13) 周りの人の安全を確かめようとした	25	15.4	23	20.2
(14) 無我夢中で覚えていない	7	4.3	5	4.4
(15) その他	33	20.4	14	12.3
(16) 無回答	17		2	

地震アンケートへの協力をお願い

様

長崎大学工学部

高橋 和雄

平成 17 年 3 月 20 日の福岡県西方沖地震の被災をこころからお見舞い申し上げます。負傷された方々の一日も早い回復と被災地区の復旧・復興が順調に進むことをお祈り申し上げます。

玄海島にはこれまで、4 回ほど行って調査させていただきましたが、住宅、宅地の被害の大きさに大きなショックを受けました。

平成 17 年福岡県西方沖地震や平成 16 年新潟県中越地震を経験して、地震はどこで起こってもおかしくないことがわかりました。今回の皆様の地震時やその後の経験を基に、しっかりとした防災対策をしておくことが必要と考えています。そこで、今回の災害を経験された皆様に今回の災害のことをお聞きしたいと思い、このアンケート調査を企画しました。なるべく早くと思いましたが、皆様がとりあえずの生活の場を確保されるまでお待ちしました。地震直後のつらいことをお聞きすることをお許し下さい。

今回の福岡県西方沖地震について土木、建築、地盤などの学会が調査活動に取り組んでいます。私は土木学会福岡県西方沖地震の調査団の副団長として、災害対応(避難、情報、復興など)の調査を担当しています。私はこれまで、長崎県雲仙普賢岳の火山災害、鹿児島県鹿児島市の水害及び出水市土石流災害、熊本県水俣市土石流災害、阪神・淡路大震災の被災地である神戸市の災害直後の住民や行政の対応・復興調査を継続して行ってきました。玄海島についても皆様の復興を見届けるまでお邪魔するつもりでいます。

なるべく多くの方の回答が必要です。地震後のお疲れのところ、またご多忙のところ、手間をお掛けしますが、ご回答のほどよろしくお願いいたします。

尚、アンケートの集計は統計的に処理しますので、皆様のお名前とかお住まいの場所が出てくることはありませんことを申し添えておきます。

敬具

回収するもの 1.アンケート回答

同封の封筒をお使い下さい。

連絡先

〒852-8521 長崎市文教町 1-14

長崎大学工学部社会開発工学科土木構造学研究室

高橋 和雄 河野 祐次 (大学院生)

電話 095-819-2610 FAX 095-819-2627

E-mail: takahasi@civil.n agasaki-u.ac.jp

福岡県内市町村における地域防災計画「地震対策」に関する調査表(単純集計)

I. 地域の災害環境についてご回答下さい。

- 問1 あなたの自治体で、過去20年間に実際に被害を受けた自然災害はなんですか。
次のリストのうちから該当するものをいくつでもお選びください。

項 目	N=54 複数回答	
	数	%
暴風	49	90.7
豪雨	49	90.7
豪雪	24	44.4
地震	22	40.7
高潮	6	11.1
洪水	1	1.9
津波	1	1.9
自然災害の発生はない	1	1.9
その他	2	3.7

- 問2 あなたの自治体で発生が心配される自然災害はなんですか。順番を付けるとしたらどうなりますか。地震が出てくるまで番号をお付け下さい。

項 目	挙げられた数	優 先 順 位							順位を つけられない
		1	2	3	4	5	6	7	
暴風	50	10	16	19	2				3
豪雨	52	29	16	3					4
豪雪	6			1	3	2			
洪水	40	8	13	14	2				3
高潮	10		1	2	6				1
地震	53	2	2	8	26	9	2		4
津波	2					2			
その他	1		1						
無回答	1								

- 問3 あなたの自治体では、被害を伴うような地震が発生する可能性はどの程度あると考えられますか。

項 目	N=54	
	数	%
十分ありえる	26	48.1
あるかもしれない	23	42.6
ほとんどないと考えられる	3	5.6
わからない	2	3.7

II. 防災対策についてご回答ください。

問1 次の防災行政無線の整備についてお答え下さい。

	整備済み	計画中	今後			一部整備済み	無回答	合計
			整備したい	必要ない	検討中			
同報無線(住民連絡用)	21	3	20	1	2	1	6	54
移動系無線	33	1	8	4	1	1	6	54
地域防災無線	9	1	12	20	1	2	9	54
N=54 (%)								
同報無線(住民連絡用)	38.9%	5.6%	37.0%	1.9%	3.7%	1.9%		
移動系無線	61.1%	1.9%	14.8%	7.4%	1.9%	1.9%		
地域防災無線	16.7%	1.9%	22.2%	37.0%	1.9%	3.7%		

問2 あなたの自治体の自主防災組織の結成状況をお教えてください。

結成世帯数： _____(世帯) 全世帯数： _____(世帯)
 あるいは
 結成人数： _____(人) 全人口： _____(人)
 結成率： _____(%)

問3 あなたの自治体では、住民や地域を対象としてどのような防災訓練を行っていますか。次のリストのうちからいくつでもお選び下さい。

項 目	N=54複数回答	
	数	%
消火訓練	29	53.7
避難訓練	18	33.3
応急手当訓練	10	18.5
炊き出し訓練	9	16.7
情報伝達訓練	8	14.8
その他	12	22.2
防災訓練は行っていない	16	29.6
無回答	3	5.6

問4 あなたの自治体では、地震対策を含めた防災対策はどの部署(係)で担当していますか。

N=54		
	数	平均人数
総務課	46	2.5
その他	8	3.8

付問 4.2 地震や地質、土木などの技術担当者が配置されていますか。

N=54		
項 目	数	%
配置されている	3	5.6
配置されていない	51	94.4

専門分野名	A町	B町	C町		
	土木	土木	土木	測量士	応急危険度判定士
人	1	4	4	1	2

問 5 あなたの自治体では、行政内部でどのような防災訓練を行っていますか。次のリストのうちからいくつでもお選び下さい。

項 目	N=54		複数回答
	数	%	
情報伝達訓練	12	22.2	
災害対策本部設置訓練	12	22.2	
非常召集訓練	5	9.3	
輸送訓練	3	5.6	
避難所開設訓練	4	7.4	
その他	10	18.5	
防災訓練は行っていない	28	51.9	
無回答	1	1.9	

Ⅲ.地域防災計画「地震対策」の策定状況についてお聞きします。

問 1 地域防災計画における地震対策は、地域防災計画書に含まれていますか。
それとも独立した冊子になっていますか。

N=54		
項 目	数	%
地震対策編として独立	9	16.7
地震対策編として独立の予定で策定中	4	7.4
他の災害と同列で地域防災計画書に含まれている	37	68.5
地震対策はまだない	4	7.4

問2 平成7年の阪神・淡路大震災以後新しく地震対策で導入した防災システム、資器材等がありましたらご記入ください。

N=17	
新しく導入したシステム、または、機材	数
防災行政無線	10
投光器	2
福岡県防災情報システム	2
「防災マニュアル」を作成し、その中に地震対策編を盛り込んでいる	1
計測震時計	1
県と全市町村とを結ぶ防災行政無線の設置	1
災害対策基本方針を策定し、それに基づき対策を施している	1
消防局庁舎の新築	1
福岡県及び市町村で構成する「福岡県防災情報システム」を整備	1
ホームページ(防災情報北九州)の公開	1
応急危険度判定士、被災宅地危険度判定士の養成	1
私有建築物の更新時における安全性および耐震性の向上	1
防災マップ	1
消防指令システムの構築	1
総合防災情報ネットワークシステムの構築	1
耐震性防火水槽	1
定期報告制度による民間建築物の耐震改修指導	1
同報系の整備	1
導水管、送水管、配水管の更新事業	1
避難所となりうる小中学校の改築や市民センターの整備	1

問3 地震対策では地震の規模(マグニチュード M)を想定していますか。

N=50		
項 目	数	%
地震の規模を想定している	14	28.0
想定していない	32	64.0
無回答	4	8.0

想 定 地 震 名
糸島地震 (M=6.5)
活断層に着目した想定震源 (M=6.5)、糸島地震 (M=6.0)、基盤一定 (M=6.5)
警固断層による地震 (M=6.5)
水縄断層西部地震 (M=6.5)
但し、地震の規模による動員計画のみ
西山断層、警固断層 (M=6.5)
西山断層による (M=6.5)、警固断層による (M=6.5)、水縄断層による (M=6.5)
阪神淡路大震災

問 4 地震対策における発生しうる地震を震度階に換算すると最大値はいくらになりますか。

N=50		
項 目	数	%
震度 4	3	6.0
震度 5 弱	3	6.0
震度 5 強	6	12.0
震度 6 弱	15	30.0
震度 6 強	5	10.0
震度 7	2	4.0
決められていない	14	28.0
無回答	2	4.0

問 5 地震による地盤の液状化、火災、津波等に対する防災マップが作成されていますか。

N=50		
項 目	数	%
防災マップを作成している	6	12.0
作成中	6	12.0
いない	38	76.0

問 6 あなたの自治体で地震が発生した場合どのような被害が心配されますか。
次のリストのうちからいくつでもお選びください。

項 目	N=50	
	数	複数回答 %
家屋の倒壊	49	98.0
火災	47	94.0
ガス、水道、電力等のライフラインの被害	46	92.0
斜面やがけ等の崩壊	44	88.0
通信(電話)の被害	43	86.0
道路や交通施設の被害や混雑	41	82.0
堤防、防波堤等の損壊に伴う浸水	21	42.0
地盤の液状化	14	28.0
津波	12	24.0
危険物施設の被害	8	16.0
その他	2	4.0

問 7 地震が発生した時に、災害応急対策としてどのようなことが課題となるとお考えですか。次のリストのうちからいくつでもお選びください。

項 目	N=50 複数回答	
	数	%
災害時要援護者(高齢者、障害者)の救済対策	44	88.0
被害状況及び防災情報の収集・伝達	39	78.0
避難所の確保	34	68.0
交通路の確保	29	58.0
医療施設対策	29	58.0
給水車等による応急給水	26	52.0
ごみ・がれき等の処理	26	52.0
消火活動	25	50.0
応急仮設住宅建設の用地	25	50.0
職員の動因	24	48.0
復旧資材の運搬	21	42.0
その他	4	8.0

問 8 自治体で地震対策を策定する場合の課題がありましたら、次のリストからいくつでもお選びください。

項 目	N=50 複数回答	
	数	%
庁内に地震、地盤、地質等の専門知識を持った人材が少ないこと	28	56.0
地震対策を作成しても、予防対策を行う財源の確保が難しいこと	24	48.0
地震対策を委託する財源がないこと	21	42.0
地盤、地質などの基礎データがないこと	20	40.0
担当職員の数足りないこと	20	40.0
日常業務で多忙なため、時間が取れないこと	14	28.0
住民の関心が低いこと	6	12.0
市町村合併に伴い、業務が大きく変わっており、直ちに地震対策に取り組めない状況にある。	4	8.0
市町村として、特別な地震対策は必要なことの合意形成ができていないこと	4	8.0
庁内の他の部署(課、係)の協力が得られそうにないこと	1	2.0
地震対策の策定にあたって県からの情報提供・指導がないこと	1	2.0
その他	1	2.0
課題なし	3	6.0

問 9 自治体が地震対策の策定を行うにあたって、県や国からどのような支援が必要と思われますか。
次のリストのうちからいくつでもお選びください。

項 目	N=50 複数回答	
	数	%
被害想定(防災アセスメント)の実施や地震対策を策定するための財源措置	32	64.0
地震対策を策定するための人材派遣や専門家の紹介等の支援体制	30	60.0
地盤、地質等の基礎データ調査の資料提供	29	58.0
県の被害想定を市町村が使用しやすいように、地域別対策、重点対策等を示すなどの工夫	20	40.0
広域行政圏、消防圏等の複数の自治体で策定する体制づくり	18	36.0
地震対策を策定するための講習会、説明会の開催	17	34.0
県の被害想定	10	20.0
無回答	4	8.0

問 10 地震対策は、他の豪雨、洪水、暴風等の対策と異なると思いますか。

項 目	N=50	
	数	%
特に異なると考えられない	5	10.0
異なると考えられる	44	88.0
無回答	1	2.0

付問 10.1 どのような点が異なると考えられますか。次のリストからいくつでもお選びください。

項 目	N=50 複数回答	
	数	%
被害の予想がしにくいこと	40	80.0
自治体内の全域に被害が発生するおそれがあること	30	60.0
対策が行政だけでは行えない側面が大きいこと	26	52.0
応急対策が全く行えないおそれがあること	17	34.0
発生の頻度が小さいこと	15	30.0
個人や地域の日常の備えによって被害が異なること	8	16.0
その他	2	4.0
無回答	1	2.0

問 11 九州の市町村において地震対策を策定する場合の固有の課題、大学などの研究機関への要望等がありましたらご記入ください。

要 望
過去にあった地震（震源地）等の情報がほしい

IV. 平成 17 年 3 月 20 日の福岡県西方沖地震発生時の初動体制についてお聞きします

問1 福岡県西方沖地震時のあなたの自治体における震度はいくらでしたか

N=54		
項 目	数	%
震度 6 弱	1	1.9
震度 5 強	7	13.0
震度 5 弱	13	24.1
震度 4	28	51.9
震度 3	4	7.4
震度 2	1	1.9

問 2 災害対策本部等の設置基準・配備要員をお教えてください。

- (1)災害警戒本部 震度_____の地震が発生したとき
要員数_____人
- (2)災害対策本部 震度_____の地震が発生したとき
要員数_____人

問 3 災害警戒本部又は災害対策本部を設置しましたか。

N=54		
項 目	数	%
災害警戒本部を設置した	23	42.6
災害対策本部を設置した	19	35.2
設置しなかった	12	22.2

N=54

項 目	数	設置した時間帯	数
災害警戒本部を設置した	23	10：53～11：00	12
		11：00～11：30	8
		11：30～12：00	1
		その他・不明	2
災害対策本部を設置した	19	10：53～11：00	8
		11：00～11：30	9
		11：30～12：00	2
いずれも設置しなかった	12		

問4 配備要員を招集できましたか。

- (1) 招集できた 参集した要員数 _____人
 うち
 11時まで _____人
 11時30分まで _____人
 12時まで _____人
 13時まで _____人

(2) 招集できなかった (理由: _____)

N=54		
項 目	数	%
招集できた	49	90.7
招集できなかった	2	3.7
無回答	3	5.6

問5 休日・夜間における地震発災時の配備要員の招集方法をお教えてください。次のリストからいくつでもお選びください。

N=54		
複数回答		
項 目	数	%
自主参集(登庁)	48	88.9
電話連絡	46	85.2
携帯メール	7	13.0
一斉呼び出し装置	6	11.1
その他	3	5.6

問6 住民への広報活動を行いましたか。

N=54		
項 目	数	%
行った	26	48.1
特に行っていない	27	50.0
無回答	1	1.9

No.	行 っ た 理 由
1	村内を消防車、公用車で巡回した
2	防犯無線により津波の注意を呼びかけた
3	防災無線による呼びかけ、公用車による広報活動
4	防災無線での地震のお知らせ。震度と震源地(後日の余震の時)
5	防災無線
6	防災行政無線による放送

7	防災行政無線による被害報告の呼びかけ
8	防災行政無線による拡張、消防団の車両によるマイク広報、回覧による広報
9	防災行政無線により、1・津波注意報の発令、2. 応急処置時の注意。
10	防災行政無線により、余震の警戒、火の元確認、被害の発生についての放送
11	津波注意報が発令されたため、沿岸地域へ消防車両で広報を行った。
12	町内全域に有線放送により注意の呼びかけ
13	消防本部による注意を呼びかけ及び海岸巡視による津波避難の呼びかけ
14	商法団による広報車での巡回
15	消防団による広報
16	消防隊による津波や余震等への注意呼びかけ、パトロール。ホームページによる被害情報等の市民への周知。
17	市内を4ブロックに分け、広報車等で広報活動を行った
18	地震被害に便上した業者に対する注意呼びかけチラシ(警察より)
19	広報車による町内巡回
20	広報車5台を市内各地へ巡回した。
21	行政区長へ電話連絡による公報。町消防団による町内警戒と公報。
22	各区長に、有線放送を使用して、自主避難等の呼びかけ
23	オフトーク放送設備により、被害状況についての情報の呼びかけを行う
24	オフトーク通信により、全世帯へ通信
25	FM ラジオへの放送要請。地域防災無線。メールによる公報(登録者のみ)。
26	3/20 福岡県西方沖地震後、地震に対する知識と危機感を持ってもらうため、住民に対し地震対策の回覧を2回行った。

No.	行わなかった理由
1	以後ひどい地震が起こらなかったため
2	消防、道路担当課等による見回りを行った
3	消防署で公報を行った。
4	職員による巡視活動で対応
5	震度4で特に被害は大きくないと思われたため
6	震度4で被害が少なかったため
7	町内の巡回時被害がなかったため
8	特に被害がないことが確認できたため
9	何の広報活動かわからない
10	被害が少なかった
11	被害が少なかった
12	被害がなかったため
13	被害がほとんどなかったため
14	被害状況把握を行っていた
15	被害情報の収集を直ちに行い、結果被害はほとんどなかったため

問7 被害情報の収集を行いましたか。

N=54

項目	数	%
行った	52	96.3
特に行っていない	1	1.9
無回答	1	1.9

No.	行った理由
1	オフトーク放送設備により、被害状況についての情報の呼びかけを行う
2	各課担当による町内及び施設の巡視点検による被害の収集、報告。消防本部による町内、海岸巡視による情報収集報告。
3	各課による市内施設等の巡回、警察や消防との連絡
4	各関係機関と電話連絡。車による巡視。
5	各行政区長との電話連絡。車での町内各地の巡回
6	各行政区長に依頼し、被害調査回覧文章を隣組回覧してもらう。
7	各行政区長への電話連絡。職員の現場確認。町民から電話連絡
8	各行政区の区長に依頼し、人的住居的被害の情報収集を行った。
9	行政区長、消防団長
10	区長への連絡。職員等による町内巡回。
11	車で巡回
12	車での偵察と区長への依頼
13	車にて町内巡視
14	公的物件については各課より、又、個人物件については町内の巡回と個人の申告により把握。
15	広報車による町内全域の巡視及び危険箇所の点検
16	公用車及び消防団を動員した
17	個人からの電話連絡。町内徘徊
18	災害警戒本部を設置し、住民からの情報収集を電話で行った
19	参集した職員に被害調査地区を割りあて、人的被害、建物被害、公的施設被害の調査
20	参集した職員により区域内の巡回を行った
21	参集職員による各地域巡回調査、各地区区会長に対する状況調査報告以来、消防団による各地区巡回調査依頼
22	市内巡視
23	市内を4ブロックに分け、市の車両で巡視を行った
24	市民からの通報、市職員の登庁上の情報、警察、消防等との連携
25	巡回・電話による受付
26	消防、警察及び市民との情報交換。公用車での巡回。
27	消防団、職員による町内巡回調査
28	消防団及び地元駐在員に各地区の現状調査を依頼
29	職員・消防団パトロール
30	職員が市内を巡回。各行政区長への依頼
31	職員による巡回

32	職員による巡視活動で対応
33	職員の市内パトロール
34	担当課による町内巡視と聴取を行った。
35	町内18行政区に対して、町職員を18班に分けて被害調査を行った。結果被害なし。
36	町内5、6ヶ所に区割りして庁用車で被害状況を午後12時から見回りをした。消防署、警察署等からの連絡も収集した。
37	町内巡視
38	町内の家屋、道路等、巡回確認。消防署への救急確認
39	町内の巡視・巡回、行政区長に一斉FAX送信を行い、行政区内の被害状況を把握し報告してもらった。
40	町内を地区割りして、職員二人一組で班を編成し、巡回させるとともに、各公共施設については、所管課職員で対応
41	町内を7班体制で見回り、各行政区長に被害の状況を聞いて回った
42	電話による通報受付。情報収集車を出動させた(10台程度)。各課所管施設等の点検。関係機関(消防等)からの入手
43	電話連絡・町内巡回
44	土木部による巡回
45	パトロールによる所管施設の被害情報の収集。病院への問い合わせ。
46	被害状況を村内巡回で調査した
47	被災者よりの電話。職員による公用車での町内巡回(外視調査)
48	町職員を6班に編成し、被害状況調査実施
49	民地調査班による市内パトロール。町内会長による被害家屋調査。

問8 防災責任者(市町村長等)への連絡を行いましたか。

N=54		
項目	数	%
連絡した	49	90.7
連絡しなかった	4	7.4
無回答	1	1.9

問9 今回の地震の課題についてお教えてください。

N=54		
項目	数	%
課題があった	37	68.5
課題はなかった	12	22.2
無回答	5	9.3

No.	課 題
1	「県内では大きな地震はない」と考えている人が多く、地震に対する備えがなされていなかった。
2	糸田町として今回特に大きな被害はなかったが、仮に被害が発生した場合、現在の行政が所有している機材や備蓄品では、十分な対応は不可能である。又、水害と異なり被害箇所が広域となるため地震に対し基本的な被害対策を策定する必要性がある。
3	休日であったため、職員への連絡が取れなかった(特に普通電話)。
4	休日にあたり、職員招集が難しかった。
5	勤務時間外の連絡体制。「通常の電話がつながりにくかった」。
6	携帯電話が使えない。
7	携帯電話等が使用できなくなり連絡情報収集がやりづらかった。
8	携帯電話等の連絡手段が使えなかったこと。
9	今回の地震というよりも、柳川市は平成17年3月21日に合併したので、まだ、(地域防災計画)を作成しておらず、暫定的に(地域防災マニュアル)を作成して対応している点で、今後早急に(地域防災計画)を作成していくことが課題である。
10	今回の地震を踏まえた人員配備体制及び対策の見直しを行う。
11	今回は避難者がなかったが多数の避難者や避難が長期にわたる場合の食料等の対応に付いては課題がある。
12	災害想定が風水害中心だったので地震対策が十分でないこと。対策強化を早急にすることが必要である。
13	災害優先電話の利用、市町村間の応援方法(解決済み)。
14	地震がない地方であるということが、危機管理を薄くしているため、職員が何をしていたか把握できなかった。マニュアルを作成する必要がある(震災対策編)。
15	自身による避難等の住民意識がまったくなかった事。
16	地震発生後は電話がつながらない状況であり、職員の参集方法について課題があった。
17	地震発生時に電話回線が完全にシャットアウトされたため、連絡、通信手段の確保を考えていきたい
18	自分の配備基準を把握していない職員がいた
19	情報の一元化(特に報道対応)
20	職員が災害発生時に何をすべきかを理解していなかったため、動員などが不十分だった。
21	職員参集と状況把握
22	職員への連絡が電話ではできない(不通)。メールアドレス把握が必要と感じた。被害程度が小さかったため幸いだったが、多大な被害が発生した場合の対策についていろいろと検討する点があった。避難支援、生活物資の確保、情報連絡体制など。
23	通信手段の確保。携帯電話がつながらなかったため
24	電話がつながりにくく、職員への連絡に時間がかかったこと、万が一に災害が発生していた場合に関係各位に連絡が取れなかったと思われるので、この問題をどうするかという課題が残った。
25	電話がつながりにくくなったため、職員への連絡方法に課題が残った・メールを活用する等の工夫が必要
26	電話が不通となった。
27	電話が不通の時の連絡体制について等
28	配備基準の周知徹底。情報連絡体制の強化。
29	配備要因が参集できなかったため、今後職員対策マニュアルを作成し、対応することが必要と思われた(現在作成中)
30	初めての経験で初動に戸惑った
31	被害がなかったから良かったものの地域防災計画において地震対策を講じる必要性がある

32	福岡では大きな地震はないと思い込んでいたため、すばやい対応が取れなかった。具体的に何をすればいいかわからない。
33	防災無線が未整備のため住民周知ができない・被害にあったものに対する支援制度がない
34	より具体的な書道行動の見直しが必要